



### スプリング宣言

スプリングの完成は、一年度の自治会の  
総決算の意義をもち、次年度への発展のステ  
ップとなるものである。

ここに昭和48年度自治会機関誌スプリング第  
14号の成功を、全自治会員の協力の名におい  
て宣言する。

我々大手前高校自治会員は、この14号によっ  
て対話、団結、貢献、問題提起により自治意  
識のより進歩をはかるものである。

目次

一、自治会	
○ 48年前期のこと	前期会長 江田 竜 咲
○ 後期会長として	後期会長 上 坂 洋 文
○ 「日焼けした白雪姫」	三ノ二 西 田 竹 志
○ FATTLE OF A WEEK	厚生部長 木 内 一 喜
○ 自治会祭紹介	8
○ 48年度文化祭	8
○ 48年度体育大会記録	9
○ 48年度コーラス大会	9
○ 49年度行事紹介	10
○ 座談会	11
二、クラス紹介	全クラス
三、クラブ紹介、大会記録	28

四、文芸、評論

○ウランバトルの春・戦士

○赤か黒か狼か

○修学旅行名句選、西海土産

○二昔前のこと

○コンピュータの話

○ことば

○卒業にあたって友への伝言

池田千鶴子

阿南真理

中原ゆかり

森延哉遠

35

片山竜夫

36

中村良一

37

甲斐登喜子

39

五、先生紹介

多賀谷先生

平瀬先生

岸田先生

松田先生

小松先生

中村先生

41

六、編集後記

江田竜咲  
仲野徹

44

表紙デザイン

市村圭子

見開きデザイン

高瀬順子

クラス紹介のカット

柴十糸子

## 48 年前期のこと

前期自治会長 江田龍咲

前期自治会本部―それは「行事の運営」を目標とした。

執行部は文化祭、自治会祭、スポーツ大会のほぼ100%と、体育祭、北野交歓の50%以上を担当し、活動した。確かに、我々は行事に追われつづけ、それ以外に何もしなかった。行事中心の考え方は本部が発足した時点で決っていた。というよりも「運営」のために本部が、構成されたのだから行事を主眼において行動したのは、必ずしも間違っていたかと思う。本部は「行動」が主体だった。一体、本部が「行事運営」にのみ、精力を使ったということについては白監視する人がいるだろう。行事をするのみでは「自治―自ら治める」という意味がないと言われるかもしれない。

だが、私はこう主張したい。「行事は最重要である。何故なら文化祭一つをとってもこの形が決定されるのに、10年かかったから。」先号の新聞にその歴史が簡単に書かれていたが、48年に文化祭二日制が安定化して、クラス参加があり、それが現在の形になるには、46年の笠井執行部の時までを待たなければならなかった。

行事の認識は、先輩諸氏の努力の後を見ることから始まるのである。ある意味においては行事運営こそ「自治」のティピカルと思える。文化祭が、自治会祭が、そして体育祭が、例えば職員会議の顔色をうかがうように運営されたならどうだろう。また、一部の生徒によって、何らかの固執的目的によって利用されたならどうであろう。

そのような傾向をなくすためだけに自治会は存在してもよいのではをいだろうか。

もう一つ、48年の笠井会長が言われていた事だが、行事は生徒間の対話をまし、それによって生徒のつながりをまし、そして自治会その生徒集団全体のエネルギーを増加するといえる。我々の大手前にはそれが必要だと思う。文化祭当日、学校は外から見ると平常授業とみえる程さみしく、生徒はほとんど他校の文化祭へ、などということでは単なる生徒集団としての自治会の存在さえ無意味になってくる。故に私達の本部は行事中心にやってきた。

本部一同何らかの成果はあったと信じたのである。行事運営自体はぼろぼろだったと思うのだが、前期を通してみれば多くの問題があった。今更どうなるものではないが、ここにあげてみよう。

。第一に、予算(クララの)のトラブル。運動系クララの多くは、その用具の極端な値上りのため、質的にも量的にも多く制限された。常任委はほとんどそれを察知できなかった。

。自治会祭において本部行事が無計画すぎた。  
。文化祭のクラス参加はパンク状態に近く、代用教室などが準備できなかった。

。コーラス大会の三年の編成がえ(二組ずつの参加)は結果的に二年の予選突破を不可能にしたし、三年生に混乱を招いた。



## 後期会長として

後期自治会長 上坂洋文

やりたいことをやらせていただいております。このことが何よりの幸福と思っております。したがって、この会長という仕事、大変楽しくやっております。クラブのように。

この大手前高校で、みなさん一人一人、いったい何を学んでいくのでしょうか。高校時代は、一生において、どんな季節なのでしょうか。私は、この三年間が、さまざまなことに積極的にぶつかって行く。いわば、若さを発散させることによって、自分の方向を探り出していく季節だと思えます。そのためには、この大手前高校を、みんながやりたいことをどんどん進められるような環境にもっていく必要があると思えます。

それを誰がするのか。私達一人一人の手で進めていきましょう。私達は、お互いにかかわり合いを持った存在だからです。けれどもそれがうまくいっていないようです。なぜ？ みなさん、考えてみてください。では、どうすれば？ みなさん、考えてみましょう。私達本部は、少しでもそのお役に立つよう努力します。

自治会の組織が私達一人一人のものであり、私達一人一人のためのものであるということ。簡単をようで、ずいぶん、むずかしいですね。

話をもどしましょう。本部が努力するといいましたが、具体的にどういったことができるでしょう。その前に、私達の青春とは高校

生活において何なのかを考えましょう。クラブ活動と学習と交友と。そう、H R 活動も青春でありたいですね。運動系ならがんばってやってみるな、試合のときは応援してあげようとか。文化系なら、どんなことをやってみるのだから知りたいたいとかを、彼らに対して感じませんか。そしてクラブも、そういう暖かさの中で活動していくべきだと思います。学習の場合は、みんな同じ事を行っているんです。そのかわりあいは、個人の学力向上にも大きな影響を与えています。それから、受身のものから自主的な学習へと進めることも必要です。先生と生徒との関係も、改善されるべきですね。そして次の、交友という問題、これは、私の主観としては一番大切じゃないかと思うんです。あなたの一日を考えてみてください。友だちがどれだけの意味を持っているかわかるはずですよ。お互いに、自分の思っていることを出し合いませんか。人の意見を聞きましょう。自分の意見を話しましょう。そうした中で、暖かさというものが生まれてくると思えます。自分へ影響を与えない、何の意味も持たない友人ほどつまらぬものはありません。意志の疎通があれば、孤独（その意味する所は複雑です。）にはなりません。一言言われた三無主義は、その孤独の産物だと私は思います。これを読んだら、後期本部がどういった事をめざしているか、具体的にどういう事をしようというのか、わかっていただけれると思えます。私は、みんながやりたい事をできればいいのであって、本部が目立つ必要はないと思えます。しかし、本部はそれがなめらかに進むようにいろんな努力をしたいと思います。暖かさを前面に押し出して、この仕事に打ち込んでみたいと思えます。最後に、質問のある方、大歓迎いたします。

## 「日焼けした白雪姫」

312 西田竹志

この三年間楽しい学生生活というより、寧ろ自嘲と自棄の生活の中に蒼白い幻を求め、甘い感傷や虚無の深刻な悲哀を味い、時には道化者の悲しい歌を歌い、常に、淋しい人生の森の彼方の静かな湖を憶い、ただ一人の生活”をなつかしんだのである。

ポケットに手をつっ込んで一歩踏み出した時そこでは秋がもう去ろうとしていた。十一月某日、今年も淨瑠璃寺を訪れた。悪しくも時雨が悲しい風景を殊更悲しくしていた。奈良坂をゆるやかに飛翔する時は物言わぬ果実のように熟れていた。時には眩しく感じられる紅葉をもこの辺りの自然は静かに埋葬し、不幸にも染まらぬ運命の木々との調和を見事に為し遂げていた。頭の中を枯葉が流れていく、一人の女性が自分の心を支配した。ただ徒らに自分の心を苛立たせ傷つけるに過ぎないものであると知りながらも、なお愛する心の果が烈しい憎しみを感じた時すらも、愛さずに止まなかつた己の心が厭わしくも哀れに感ぜられる。

やがて序曲は終わり急に激しくなつた雨は、簡素な山門の方に曲がっていった。山門をくぐると蓮池が透明な秋の中に平安朝から今この瞬間までの歴史を溶かし込んで静かに佇んでいた。おきまりのコース池の囲りを一周し二周目に五重塔を見、ゆっくり三周目を終えるーをおきまりのスピードで歩く。ふと見上げるかあなたに彼女の面影がオーバラップして遠景を静かに埋める。そして一抹の寂しさを残しこの無限の静かさに別れを告げ門をくぐるとき私の秋も終わるのである。

## Battle of a week

厚生部長 木内一喜

厚生部の一週間はまさに試験にみちみちているのです。この恐るべき試験の致々に耐え抜くには、通常の忍耐力としゅうち心ふりきり力では対処できないのであります。しかし、この試験に耐え抜いた少数の先輩諸氏はりっぱな厚生人として巣立ち、旧部長の言葉を借りれば、今も世界各地で宇宙の平和の輪をひろげておられるのであります。さて、その一週間をかいつまんでお話ししましょう。月曜日。それは私達にとって光栄にみちた日なのです。天国O.M.M.前支店から届けられる神のみめぐみの花子ちゃんを私達は天使となつてもじもの民へと手渡すのです。月曜日に天使を見たと思つたら、それはきっと私達でしょう。水曜日。悪魔の讃歌。悲しきかな私達は、白い悪魔の手先とならなくてはならないのです。彼らは、この日になると二十四人集まらなくては承知しません。もしも怠たればどこまでも私達をおいかけてきて「あれへんやないか」というのです。その上せせら笑いながら、おそらくは私達の全存在をかけた価値観をもぶちごわすようにいうのです。「かわいあいあの子も○○○する」と。金曜日。私達は少し救われます。あこがれの△×子ちゃんのおてをチレイチレイにする石けんを配るのですから。これらの試験の間々にも、時には倒れた友をしっかりとせよとだきおこし、時にはかんせんとバイ菌ちゃんに對抗しと我々は校内とろせましと活やくしてゐるのであります。こうして一週間は終わり、また試験の日々をむかえるのであります。

## 自治会祭紹介

## 48年度文化祭

我大手前高校は、祭りが、非常に好きなようである。文化祭の他に自治会祭が設けられているのがよい例ではありませんか。しかしまたそこがよいところなのです。その我らの自治会祭をいかにおもしろく、愉快に催すか。そこが問題なのであります。我自治会祭にはマンネリ化の傾向が出てきたとか、よからぬ噂が飛んでいるのであります。そこで、72のプログラムをめぐってみますと、

。金魚すくい (おたまじゃくしすくいをした曲者達もいた。なんせ十円で金魚すくいができるなんてすばらしい！)

。ヨーヨーつり (夜店にあるような小さな物ではないのだ！)

。お化け屋敷 (ある女の子が、恐る恐る暗い教室に入った。)

。危いノ きやあーノ (女の子の叫び声！)

。喫茶室 (寝なかつこうをした人がいます、います！)

。かみしばい (あめがでてくるし、手動扇風機がきいてて、サー

ビス満点。)

。チューリップス (すなわち、ネズミ賞争奪戦のこと。)

その他、フォークダンス (今年は、ちょっと奮いませんでした) もあり、あなたのご出演を心待ちしています。みなさんノ自治会祭は、大手前の誇る祭りの一つなのです。もっともっと、充実した、前代未聞のものを作り出しましょう。人間、自己を忘れ、バカになるのも必要です。

十月七・八日に本年の文化祭が開催された。

初日は校内での展示と講堂での劇。クラス参加が多く、部屋割り講堂での時間割り、共にぎりぎりであった。

。キヤグの最高をめざした二ノ一「アラビアンナイト」

。史上初のシリアス劇三ノ八「夜間飛行」宣伝班はバツグン。

。ファイアーで炎上した「大阪城」の一ノ三 あの落城シーンノ

。最大のページェント三ノ五「気球と船、沈みそう」

。映画ベスト1、二ノ八「孫悟空」

体育館でのどじまん大会も例年のごとく盛況で、羞恥心のなさを競い合っているかのようであった。そして夕方からのキャンパフ

ファイター。フォークダンスで女の子の手をさわり、そして大声で歌

う。やはり文化祭の中心行事ではなかるうか。ファイターにあたり、運動系クラブの人々の協力を得れたことを、ここに改めて感謝する。

二日目は青少年会館での舞台行事。各クラブ、同好会の発表とコーラス大会、閉会行事が行われた。今年は昨年のような時間不足も

なく進行もスムーズで、内容も充実しているように思えた。最後に

閉会行事。舞台と客席がいっしょになって悪のりしている感があった。

特に舞台では先生が歌われたりして楽しかったが、何かもう一

つ欠けているようにも思えた。

二日間ともにぎやかであったが、本校の方針として「文化的」ということを前面におしだしているせいとか、他校よりも面白さにおいて欠けているようだ。しかしかたないことかもしれないが。(仲野)

48年度 体育大会記録 (協力陸上競技部)

100m (男)	12" 6	3-1	津島	島原			
	12" 8	3-6	笠	田			
	12" 7	3-3	稲				
(女)	15" 2	3-9	近	森			
	15" 6	1-4	尾	畑			
	15" 7	2-2	吉	富			
200m (男)	26" 4	2-1	島	崎			
	26" 6	3-8	堀	井			
	27" 0	1-7	川	口			
(女)	32" 4	1-4	高	島			
	33" 3	2-6	寺	西			
	34" 1	2-3	川	口			
混合 リレー	1'53" 9	2-2	樋	口	小	幡	野
			内	田	吉	富	田
			吉	沢	辻	本	野
800m リレー (男)	1'27" 4	1-5	高	島	黒	田	河
			原	田			野
400m リレー (女)	1'01" 9	2-8	唐	内	鳥	居	森
			寺	西			岡

48年度 コーラス大会

決勝結果 課題曲「春の花」 (組曲「旅」より)

順位	学年・組	自由曲
一位	三年九組	新世界より「家路」
二位	二年六組	とおりゃんせ
三位	三年五・八組	ソーラン節

本年度のコーラス大会は、九月十八・九日に一次予選、十月二日に二次予選、十月八日に決勝が行われた。

一次予選は全クラスが課題曲を歌った。上位の十三クラスが一次予選を通過。一年生の練習不足がめだつた。

二次予選は、自由曲と課題曲の両方で審査。決勝進出は六クラス。一年生が一クラスも残らなかったのが残念であった。

決勝は文化祭二日目、青少年会館で行われた。課題曲が食傷気味になることと、時間の都合とで、審査は自由曲のみ。出場全クラスで課題曲を歌った。前記以外の出場クラスは、二一三、三一、三一三・七であった。

三年生の男女比からのクラスの合同の問題は、本部として解決しようとしたが、いたずらに一・二年の決勝進出を拒んだだけであった。来年度からも再考を必要とするであろう。

大会前にすると、学校中のあちこちから歌ごえがこだましてくる。結果ではなく、クラスの団結に意義があるのでなかろうか。



# 49年度行事紹介

## ☆四月

- 入学式 桜吹雪の舞い散る下で：という情緒？など毛頭なく…。
- 前期自治会役員選挙：毎度のことながら単数候補による選挙。  
「立候補 するのはいれしがりばかり」ともいつておれぬ。
- 校外教授Ⅱ遠足。きつと雨だ。

## ☆五月

- 創立記念日（一コ）：だれが決めたかわからないことゴルデ  
ンウィークのまっただ中。メーデーだから休みという説も。
- バレーボール大会：女子のみをさん、男子の試合の応援のため  
に家庭科をさぼったりしないように。
- 中間考査 あまり望みは持たぬこと！

## ☆六月

- 北野交歓：交換でなく交歓。こどもも楽しむんだそうだ。
- 自治会祭：適当に遊んでおればよい。

## ☆七月

- 期末考査：あまり期待はかけぬこと！
- 水泳訓練：今年水不足ではないだろうネ。ただ耐えよ！
- 臨海登山：これを一つの語と取るとおかしくなる。臨海教室？  
及び夏期登山の二語より成るものです。
- 夏休み：楽しいうれしい悲しい苦しい夏休み。

## ☆九月

- 水泳大会
- あちーぶめんとテスト：あまり失望しないよう！
- 運動会：クラスの旗をふりまわし鞠にはそろいのゼッケンを。
- コーラス大会：指揮者と練習量に左右されるのがおもしろい。

## ☆十月

- 文化祭：メインイベントはファイヤーストーム。それに青少年  
会館における紙飛行機の飛行コンテストと二次会か？
- 修学旅行：1・2年は楽しみにし、3年はなつかしく思うもの。  
(であるのが理想的だ)

## ☆十一月

- バスケット(女子) サッカー(男子) 大会
- 防火退避訓練 ○先生、火事のとときくらいは授業をすぐやめ  
て下さるとありがたいのですが…。

## ☆十二月

- 冬休み：日数はあまりに少ないのに宿題ばかりがなげ多い。

## ☆一月

- ハンドボール(女子)・ラグビー(男子) 大会

## ☆二月

- 予餞会：前もって餞(はなむけ)する会だそうよ
- 耐寒訓練 と称するマラソン大会：大阪城の外堀を走るのみ。
- 卒業式：螢の光はもう古い？
- 生徒総会：くだらぬ。毎月一回あるけれど…。
- 平常考査：数学に物理に…。鬼だ！

# 座談会

アンケート結果による	
〇、男子更衣室	396
イ、制服問題	278
ニ、生徒総会	288
ハ、食堂	263

司会 この前とったアンケートで、最も要望のあったのは更衣室の問題なんです。男子だけならほとんどと言えらるけど……。

まず実状ですが、どうですか？

B 中が汚ない。そうじが行き届いていない。

E そうじはどこがやってるのか？

A 二ー八が分担されてるけど、8時間め終わってすぐにそうじしに行ってももうクラブが使ってるから。それに、クラブの道具なんか置いてあるし。

E それはクラブハウスの建設ということにつながるな。

A けど、くつの泥をぬぐってはいったり、そんな配慮でもだいぶ遠ってくると思う。

司会 女子の方はどうですか？

C 女子の方も、やっぱり汚ない。一部にくつのままであがってる人もいるらしいね。

D 男子更衣室の狭さも問題やね。

F ロッカーを動かしてもらったらどうかなあ。それに、あそこ、すのこを敷いてほしい。

司会 我々の段階では、そうじの徹底と、きれいに使おうというアピールと、それに、更衣室の改築を当局に要求することくらいしかできませんね。

D それにクラブハウスの建設もアンケートに多かったね。

司会 では次に生徒総会の問題ですが、一年生は、あんまり出席してないようですが。

F やっぱり、出てもしょうがないということでしょうね。あれやったら、代表会議で学代に伝えて、それですむと思うんですけど。

H けどな、予算の報告のときの疑問点の説明なんか、今の総会の形やないとあかん。

司会 それに、今、一応最高決議機関は生徒総会と規約にあるし、なくすと、それでなくても自治会に無関心な人が多いのにますます、中央だけでやってる、という感じになりますね。

F この前の総会するとき、一年の男子から質問がでたでしょう。あれはみんな聞いてました。

D ハブニングを楽しんでるみたいところがあったね。しかし、体育館の放送設備が悪くて、それにしゃべり方もまずいし、聞き取りにくいということもあるな。

F 今年の一年の場合、二、三年はLHRの一部になってたけどそれで、一年は出席の義務がないみたいところがあった。

G 放課後やるよりも、全学年とも授業に組み入れた方がいいと思うんですけど。

D アンケートには、つまらないからおもしろくしろというのとはやく終わってほしいというのがあったな、矛盾してるけど。

司会 本部としてできることは？

E 一年生に対する啓蒙と、総会のスピード化だろうね。

司会 食堂の問題に移りますが、これは、一年が多くて学年が増す

ごとへってゐるんですが。

F 一年生が問題としてゐるのは混雑するということですね。

G 女子の場合は、汚ないというか、衛生状態と雰囲気のことです。

C 衛生状態のことやけど、第二回学校保健委員会で、学校薬剤師の方が調査してくれはることに決まつたけど……。例えばねずみのこととか、中性洗剤のこととかね。

司会 その辺の事情、あんまり、厚生委員から連絡が行き届いてないようですが。

C そうですねえ。

B 混む、いうことやけど、もっと並ぶときのエチケットみたいなのがいると思う。

D 女子なんかかわいそりなところがある。それに、うちの食堂は、他の学校と比べて狭いのかなあ。

H ちょっと狭いし、利用者が比較的多いからね。

H チケット制度はだめでしょいか、ここでは。

G 食券制度は人手がいるから、ちょっと無理やな。

F 外へ食べに行くのはどうですか。

A 土曜日は、府庁へ行っているのが相当ある。普通の日でも、常連組が割とあるみたい。

E 食堂がすぐのは、一時すぎだけど、やっぱり、昼休みが始まったらすぐに食べたいしね。

司会 では最後に制服問題ですが……。これは、どちらかといえば女子の関心が薄くて、全体としても四分の一くらいですね。学年では、二年がまあ多かつたけれど。

C 大手前は、風紀のしめつけが無いでしょう。女子のセーターとかベストとか、ストッキング、ソックス、髪飾り、みんな黙認いう感じでしょう。

E 男子の帽子も、クラスに一人か二人かぶってたらいい方だね。

D 学生服の下にカッターを着るっていうのも成文化されてないね。夏はカッターを着る、ということになってるけれど。

司会 女子の方から、冬にズボンをはかせてほしいというのがありましたけど。

D 制服自身を変えろとなるとこれは 問題がかわってくるな。全般に、制服自由化問題というのは、もう下火やね。

B あんまり長い時間、討議してるから気が抜けたんや。もし、自由化されたらね、女子の場合、どうしても見栄や、オシャレとかあるし。勉強に専念できないと思う。

G 経済的には絶対に制服の方が安上がりやろう。

E この制服自由化問題というのは、あの学生運動とともに、盛んになって、それとともこう下火になったみたいところがあると思うんだ。

C 結局ね、制服は没個性やとか、上から強制されたものやからとかいうのは、大義名分、みたいなのところがあったんと違つかなあ。実質的には風紀で締められることへの反抗みたいなの……。

E この座談会に特別、保守派が集まったわけでもないだろう？

A みんなもう熱意がないんや。

司会 今では、制服を自由化するかどうか以前の、制服問題を取りあげるかどうか、という問題になってきたみたいですね。

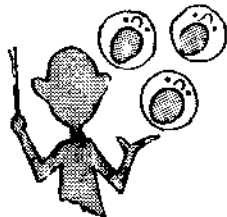
# 紹介

48年度 全クラス



## 一年一組

これからは一組の時代です。二組の時代じゃありません。なぜなら今までがしらせすぎたからです。一組の男子があまりにもすばらしすぎて、女子が近よりがたかったからです。(男子の主観的意見) 自治会祭では、おぼけやしきをやりました。文化祭では「杜士春」を上演しました。特にオこの役がよかったです。遠足ではみかんを30個食べた人が四人いました。一学期の球技大会のバレーボールでは9人制で優勝した(ある人の大活躍)。サッカー大会では奥田君の欠席により二回敗退しました。バスケットボール大会では、あまりに上品な女子が多すぎたため、おしくも負けてしまったのです。(女子の主観的意見) コーラス大会は2位(おわりから)というすばらしい成績で落選。40余人の音楽的才能が発揮できた瞬間でした。火事の避難訓練では、オッサンとチャップリンとオクメと前期会長が活躍しました。わがクラスには一学期の最初から転校してきたというトッピーな人物がいるのだ。この原稿はある人がめんどろくさがったので六人でまわし書きされています。したがって多少の文章のみだれはしかたありません。乱れついでに、話題はコロコロと変わって、12月7日に映画に行くつもりです。だから今、どの人のこのみに合わせた映画に行くかが、問題になっています。クリスマスもしたいです。アと思います。あーもうおわらなければ。では最後にこの原稿の責任者の中桐君がひとこと。「もう何も言わなくていいよ。」



あれは忘れもしない、10月8日の夜9時。人気のないO.M.M.の屋上の一角に何かうごめいている。それはまさしく「一の二」の群れであった。そしてライトもない、静まりかえった小高い所で一人の悪魔が「ひなげしの花」を歌っている。そして異様を叫び声がある。ヒヒヒ……。悪魔の群れが夜のビルを我若顔に騒いでいる。「大手前どこやノ」やっばり悪魔でも古巣が懐しいのか……。そして「コーラス大会優勝」を祝って、「苔の花」を合唱する悪魔たち。

(本当は予選も通過していない。)そしてその声は夜のビル街に響きわたる。無気味の一言につきる。♪歌を歌った男の名は人権尊重のためふせておく。このようにして「一の二」の二次会も無事に終わったかのように見えた。だが、翌日、悪魔の群れは奈良へ移動していた。そこで記念写真。(今思うと、あの自動シャッターの長かったこと)祭があるとき「一の二」の群れは悪魔の群れと化するのである。話は変わって11月の末。みかんを求めて幾千里。楽しい楽しいみかんつみです。(みかんつみは小学校の時行ったとか)私達のそばを小学生が通る。あわれ！そしてここでも悪魔の本性を發揮して、生きていくへびを手づかみにした者がいた。以後その悪魔はへび使いと化する。(みかんをなったまま皮をむいていった曲者もいたとか)そして今、なごやかな、そして無気味な笑いのうちに六時間目が終る。時たま「アー」というため息が聞こえる。(これは「一の二」の病気である)このへんでやめましよう。筆者は昼食もとらないで書き続けているのです。文化委員に栄光あれ!!

まず、人員構成。「弥生」といえば微笑する成年男子を筆頭に、神様、ポコちゃん、なあやん、アランドロン、あげ山くん、アグネスチャン、ディッシュ、ポンドガール、ポツタ姐さん、ヘルドの鬼ささもっさん、オバさん、食う子、妖怪ケイチン、奇名之進etc。(以上一応人間、以下家畜)ガチョウ、アヒル各一羽、ダックスフンド一匹、カッパルひとつがい半。(以下十把一絡)剣道部、硬軟庭球部、排球部、ソフトボール部、水泳部各数名。以下略(理由?これ以上書くのしんどいから。)……まあ全体として、ようまとまった、ええクラスやったんとかやうか。女子はみんなオモロイし、男子はみんな趣のある類しとるし。(目にしみるような声の持ち主や、目玉をつけたりはずしたりする庭球部員、ハスキーボイス三人娘、コンボの鬼、まつげのカールしたガチョウ、ヘアバンド少年、ヒロミ達の類etc.)そやけど(そやから?)カッパルは出来なんだなあ。出来たもんと言えは、漫才コンビ「K子&K二」(どつき漫才より面白いというウワサあり。)と、「〇〇君に關する独禁法」(法律違反をしているツツがいる。イケナイヨ!!)と数多の「〇〇ファンクラブ」だけ。唯、「O.S.O」(何の略かは読者の想像に任せます)「一の三」支部が出来るのを食い止める事が出来たのは、不幸中の幸いと言えらんとちゃうか……と思うて、寂しいうちにも微笑んどるんや。

えびろうぐ「ポカッノ」「〇〇ッタノ」「そいう人は、駄目なんだ!!」駄目にならないうり頑張ります。三組一同、起立、礼。

1の4は、戦場だ。クラスの一人一人の個性がぶつかり合ひ激戦地だ。ぼやぼやしていると、流れ弾にあたる。一瞬のスキも許されない。もし、ちょっとでもスキを見せようものなら、見せしめとしてさらしものにされるのだ。しかし、もちろん核兵器などはない。でもそれに匹敵する驚異的なキヤグが、毎日のように我々の上を飛びかっているのだ。連発してうけようとするF君、またA君は彼独特の表情でうけようとする。その他いろいろだ。中には敗者もいる前半ハイピッチ過ぎて終盤は、すっかり消えてしまった者や、この荒波にはじめから乗ることができないではじめから落こしていた者などもいた。いやはやたいへんなクラスだった。

とはいっても、その実は割と楽しいクラスだったように思う。文化祭には、校史上に残る、感動の名作かぐや姫を上演し、その異様に講堂にあふれるばかりの観客を動員したのも思い出に新しい。ある程度勉強もしたし、騒ぐことは人一倍したし、とにかく私としてはかなりいごちのよいクラスではなかったかと思う。

しかし、今日も1の4では、血まみれの戦いがくりかえされる。



授業中、チャットと窓の外を眺めると落ち葉に冬の近づいたの知らされる今、思えばクラスの仲間が初めて会ってから随分月日が流れました。当時は、みんな周囲の者を知ろうと相手を探り合って、不安とチョッピリ希望にふくらんだ日々を送っていたものでした。それがまあご覧下さい。自分の本性をさらけ出してしまつて、よだれをたらして寝ている者、漫画を読んでいる者、フリーバッテングをしている者、(今、男子の中で人気絶頂のエンピツを転がしてやる野球のエンピツをカラコロと転がしている者)など、予想もつかない結果となつてしまいました。ですが、クラスの雰囲気は先生方にも定評のある我五組であります。いろんな学校行事には、クラスのもの全員が一致団結、ハリキッテ参加し、結果がどうあろうと、猪一杯がんばる根性は、伏見体操を直伝したたまものとクラス一同堅く信じている次第です。男前揃い?の男子とこれまた美人揃いの女子の集合した五組、そこには芸人も多くいます。彼らは、授業のあい間や昼休みなどに芸事を披露してみんなを爆笑の渦にひきこんでいきます。(しらけ虫が昼寝してしまつときもある)。こんな楽しいクラスの仲間が口をそろえていうことに、「二年になつてクラス変えた時でも、また、こんなクラスだったらなあ。」これからもわかるとわり、全員がすばらしいと思つているクラス。そこで過ごす毎日、幸福に満ちています。OH HAPPY DAYS!



何の因果か、地獄の沙汰か、四十五名、本館の中でも最も「近代設備」に近いホーム・ルームに集まった。さてさて、我らがイチロクの女子は実はスゴイのである。バレーボール全校優勝、バスケに学年二位（ヘルドの鬼には、皆のしとかさがたれたという）、男子と言え、バレーボールもサッカーも決勝から三つ前で敗退。そこから考えてもクラス内での女子の権威が：と書きたいところだが、優しさをつつましさをモットーに、○○さんはじめカワイ子ちゃんぞろい。男子は鼻初、「わざわざ下手物そろえて：」と感心するばかりだったけど、今となれば：慣れとは恐ろしい。思い起こせば、春の大原遠征！小ぬか雨降る中、てくてくと歩いた小道、寂光院のガイドのブ口兼経文読みの頭をそったオッサン。そして、窓をしめ切り暗闇に生きた自治会祭。コンニャク誰がとったんかなあ。阪急電車に乗って喜んだけど、えげつない行に耐えた水泳訓練。そして夏休みの最大トピック、「松原君一壘ベースに捨て身の突入」(詳細は七月下旬のA新聞)。文化祭は夜の部に全量重点を置き、キャンドルサーブの時のろうそくの消し合い、二次会のあとは、優しいナイト同伴での女子のご帰館。(男子は高校にはいると急にステキになるとちょっと感心)ほんと楽しいクラスなのです。そして今、男子は彼女を、女子は彼や彼女ノを遠征攻略はやめて、早くクラスのまともなカップル第一号が誕生さすことに精を出そうではないか。

筆者の文学的才能をフルに使って、クラス紹介をいたしましす。  
 ◇入学式 一七の面々(?)無言。◇自治会祭 外見 オバケ屋敷。その実「汗とコンニャクの乱れ飛び」火の玉は本物だったとか。二次会に於て、五郎ちゃん(担任様)より一八〇円のオソバをおどって頂き候。◇文化祭「音楽喫茶GORGOR」喫茶店の食器洗いはいい加減なものです。食べ残しを再び次のお客様にお出しするともよくあるのです。「あれは、なんだ？」が流行。◇体育大会(9.28の日誌より)午前中は学年で最下位でした。けれど午後からは学校で最下位になりました。今思えば、コーラス大会も、一次予選で落ちました。今、中塚先生が、アチーブの成績を返しながら、僕達を慰めてくれます。なんと栄光に輝やけるクラスでありましたよるか(Y君著)旗にかいた某英語教師の似顔絵が受けました。◇五郎先生名譽の負傷ノ 時は秋もたけなわ、10月の20日、中間テストの真最中。バレーボールの熱戦、目前に飛んでくる白球、それを退り中塚選手。アキレス腱切断ノ 彼はそのまま病院へ：おかげで中村オリジ氏の担任代行が、今続いている。◇サッカー大会、学年優勝ノジャン、Y氏のみごとなシュート、キーパーK氏の大活躍。◇「くたばれ巨人、がんばれ阪神」来年こそは、巨人なんか：。(H先生へ)阪神 がんばれ。◇地域の争い、千林が都会だとか、田舎だとか、滝井、嶋野、焼野、大正など、とにかく出身中学に群をなして抗争が続いているのです。あげくの果ては、京阪の田舎電車とか、片町線の近代的車両だとか： あ、スペースがなくなりました。

一年八組

どこにでもある、あの入学当初の雰囲気から始まった八組でア  
リマスが、今は、そんなものは、どこへやらでアリマス。えー、八組  
は、というところにかくいるんなやつがひしめいているのでアリマ  
ス。一日に三回こけるといふバカもいれば、やがて石油危機をき  
かけに到来すると思われる物資不足の世の中を生き抜くために、お  
弁当のおかずのちくわを一きれ五口で食べるという努力家など、例  
をあげれば、きりがないのでアリマス。また、最近某人のロッカー  
を改造した有光神社（担任名より賜る）なるおやしろがクラスの片  
隅に建立され、小テストの時など、参拝客が絶えないのでアリマス。  
これは、重要文化財に指定される事疑いなしなのでアリマス。サッ  
カー大会に至っては、この神社のごりやくで、まず優勝疑いなしと  
思われたのですが、建造物が貧弱な為か、一回戦で見事吹っ飛んだ  
のでアリマス。八組には、ジंकウスらしきものがありまして、大会  
と名のつく物は、どうもムニヤムニヤなのでアリマス。また、最近  
「ポーズめくり」なる物が流行のきざしを見せており、休憩時間は  
これを利用したカケゴトが神聖なる校内で公然と行なわれているの  
でアリマス。嘆かわしい……。以上からもわかるように要するに  
ウレシガリの集団であると思っただいてまずまちがいないので  
アリマス。しかし、楽しいクラスなのでアリマス。みんなお互いに  
愛し合っているのでアリマス。現在は、その愛が四ヶ月後にカタス  
トロフィーを迎える位なら全盲揃って落第もしくは、集団心中を計  
ろうと誓いあっているのでアリマス。ブツン。 M・T 作

一年九組

五〇三番教室―広いだけで、何の装飾もなく、校門から遠くは  
なれた部屋―それが、我らのホームルームであった。それはさて  
おき、中に潜んでいる男女45名（一見穏やか、実は鬼）の方々は、  
いつもほがらか、雰囲気がいとおる先生に言われる。担任も黒田  
先生と、これまた人間味あふれる先生。しかし、上品過ぎたことが、  
かえって悪影響を及ぼすことになった。それは、諸大会での一回戦  
敗退が物語っている。全体に見れば、やっぱり大手前生だと思え  
る（例の……主義なるいかがわしい性質）のだが、けっして平凡で  
ない―一世紀中に出るか出ないか―と筆者は思うのだが……？  
こんなクラスの中でも、一人一人を見れば、個性的な人間が多い。  
何と言っても、初めての遠足の時はけっさくだった。仮面ライダー  
のまねをして、幼稚園児にバカにされた者。電車の乗りかえの時、  
一人だけそのまま行ってしまった者。また、勉強、クラブ（同好会）  
の鬼は言うまでもなく、アグネスの熱狂的ファンまでいた。そして、  
最大の行事、つまり、文化祭では、一年生で、ただ一クラス。大八  
ミリ映画『タイム・トラベラー』を上映。が、期待もむなしく、写  
っていたのは、黒一色。視聴者も少なく、上映中、見るに見かねて  
逃亡する者多数、午後の上映中止。と、こんなぐあいである。とこ  
ろで、最近、我ら専用通路（実は非常口）が、生徒の猛然たる反対  
を無視、閉鎖されてからは、遅刻者続出。毎年のことだそうだが、  
我らの戸の破壊も例外でないらしい。さて、諸君、五〇三番教室に  
ある正義の扉は、君たちの手で復活させる必要があるのでは？ 完



2の1と掛けて中部地方の中心地と解く……心は、なごやか  
全く、我がクラスの授業態度を、他のクラスの人に見せられない  
のが残念です。英語の時間など、私などが指名されますと、皆さん  
笑顔で声援して下さるのです。(喜ぶべきか、悲しむべきか?)

このFAMILY精神にのっとって、自治会祭では、「メイク・  
ア・カップル」などといふ大企画をやったのけ、文化祭では、「ア  
リババと40人の盗賊(実際は8人)」という大活劇をやったのけま  
した。この劇を見た父兄が、即、校長室へ、転校届けを出しにいっ  
たという話は御記憶に新しいことと思います。(ホンマカイナ)

修学旅行では、皆、本性を發揮し、夜、女子の部屋へ行くに出て  
いったきり帰ってこなかった豪傑、夜中に女子の名を呼んで先生を  
起こした者、仲睦まじきアベックには、皆で石を投げ、あげくの果  
てには、マムシの四兄弟の出現など、ここでは書けない事どもがあ  
りまして……紙。石油不足の折、ここでカットいたします。

最後に、黒く塗りつぶされていないなら、さし絵の人物を紹介し  
ます。この方こそ我がクラスの征服者(別名担任)稲川龍夫氏(ナ  
ンカヘンダナ)であります。ナヌ  
ッ、さし絵を見て気分が悪くなっ  
たって、まさか。(実はその気持  
よくわかるんですが)そういう人  
は、2組の紹介を読みましょ。う。  
2の1に栄光あれ!! マタンキ!!



エー 花の高校二年もあと一学期間を残す  
のみとなってきましたと、師走の風もますます  
身にしみ、過ぎし日々を綴ろうと言う気もお  
こって来ます。

ではまず文化祭(その一) 我々の苦心の  
劇「おしずはお多福物語」をご覧になったら  
うか? あの高尚さこそが二組の木領です。ちなみにK君はK嬢を  
抱き寄せるシーンがあるため主役を引き受けたのです。「その二」  
二次会において日君はウエイトレスに、みみっちくも「高いノ」と  
文句をつけたのです。

修学旅行(その一) バスの中でみんながシラケているのにも構  
わずに騒ぎまくっていた後部座席の悪童連のおかげで、安眠妨害を  
訴えたもの続出。「その二」旅館で夜中に女子の部屋へ電話をかけ  
て、卑猥な言葉を口走ったと噂される諸君、内容を発表したまえ。

先生(その一) 世界史のA先生、激励のお言葉感謝しています。  
先生の恐ろしさ身にしました。ハイ。「その二」英語のK先  
生、先生の美貌に魅せられたN君は必死で勉強して、テストの点が  
上がったと喜んでおりました。「その三」担任の片山先生、文化  
祭での美声には驚きました。素人名人会へ出たらいかですか。  
男女交際 この一年間にできたカップルの皆さん、心からおめ  
でとう。でも、その陰で涙した者のこと夢々忘れるなかれ。



## 二年三組

昭和48年4月9日、朝と昼の中頃。ここ別館二階40号教室に存在した者45+1名。担任は清水丞治先生、担当は物理。この45名の中にあの哀れな〇〇君や、我らの貢献者××君がいたとは、誰が想像したのだろうか。

〇〇君、この人は全く哀れとしか表現の方法がない。常に皆の笑いの種とされている。例えば、最近の彼の行動を風刺した絵を書くとか：。そしてもう一人の話題の人物××君。彼は英語（特にリーダー）の時間となると俄然はりきりだす。先生に好意を抱いているのでは：。なんて考えている者数名あるとかおらんとか。とにかく、英語の歩調は思うように進めずして、皆彼に感謝している次第である。三ページ進むのが一ページに留まったという事実が残っており。ここで話題転換など。まずコーラス大会において、我ら三組は決勝に進出した六クラスの一つに混ざってはいたけど、木番には五位と振わず。数週間後、その時のテープを聞かせてもらって、原因を悟ったもの多数。又、話はさかのぼるが、男子9人制排球の全校二位というのも、喜ばしい事実である。

二学期も後半にはいり、楽しみにしていた文化祭、修学旅行も済んだ。そして今、心をおちつけて考えねばならない時期であると考えはじめている人もいるようだ。しかし、△△の授業中。今日も又いつもの彼、いつもの彼女が、首を机の上に垂れている。なんとなく、あったかいムードである。一見平凡、よく見ると非凡なところもあるクラス。それが二年三組、清水学級です。

## 二年四組

小生のクラスは、あらゆる面において、抜群の才能を発揮しました。担任の香川先生の御尽力もありまして、小生のクラスの女子の数学力は、小生ら男子を、超越したほどであり、これには、先生もいたく感激なさいました。また、円滑に学習をすすめるための有効かつ成功率極大の睡眠法を、N君は大胆にも授業中に実践し、その確立をみました。体育祭は、もう少しの所で、（K君が、リレー中に手を振らなければ）入賞を逸しました。

いろいろな、珍事がおこりましたが、やはり最大のヤマ場は、修学旅行でしょう。九州の旅でしたが、そこで小生ら男子は、強い強い連帯感によって結ばれ、数多くのことを語り、数多くのことを知ったのです。女子も女子で、いろいろなものを得たことでしょう。異性間の交流は少々幼稚であったように思います。（『変電所』をしている姿は、決して高貴な感じはしませんでしたよ。）そうそう各々個人の秘密があばかれ、そこから新しい出発を果たした人もいました。大人になっても、大変よい、そしてまた、ためになる思い出となるでしょう。

数十年後、このページを読んで、小生らはどのように感じるでしょう。美しい花々（女子の象徴）と、それをやさしく包む春の日光（男子の象徴）を連想するでしょうか。この一年、あっさり捨ててしまふには、しのびない多くのものを得、かつ多くのものを失いました。これが青春です。これが、我が二年四組なのです。

二年五組

そもかの墮落の発端は、自治会祭にぞありぬべき。暗やみに怪人奇人の出るといふ、その名も恐怖の迷路にて、ただ女子のみを通したり。神様はお客様にはあらずして、主催者側のみ楽しみぬ。此はおさはり迷路となりけり。この一件を端緒とし、クラスの雰囲気定まりぬ。頭上を飛び交ふキヤグ。ジョーク、物まね。トランプ。へぼ将棋。此はどのクラスにもあることなれど、常に誰れもがかくあるは、我がクラスのみと人の言ふ。

各々がこれ皆芸人の我がクラス、文化祭には喜劇にて、皆絶対の自信持ち、参加するにはしたれども、練習不足がたたりてか、奮闘努力の甲斐もなく、白けた芝居に終りたり。

さて、問題は是の次の修学旅行にぞありける。平戸のホテルに泊まりし晩に、我組男子十数名「月の夜ばひ」と銘打ちて、女子の部屋へと忍びたり。何の為ともわからぬが、或ひは単なる好奇心、いとも白けたこの旅行、何か思ひで残さんと、忍んで行ったは良いけれど、すぐ先生に見付かりて、しよぼしよぼ部屋へと帰りたり。

しくじって何やらむなし秋の空

旅行後は、少しは静かにならむかと、期待するのは大間違ひ。いつに変わらぬ笑ひのクラス、これを見かねた会長は、キヤグ禁止令をば発したり。ああ、何とふざけた是のクラス。二年五組の物語。

松田先生、御免なさい。



二年六組

二一六は学年前半において、早くも3つの偉業を達成した。一つは、男子排球六人制全校優勝、一つは、体育大会全校優勝、残る一つは、文化祭コーラス大会全校優勝である。しかし前記の記録はいずれも一部のスペシャリストによって獲得されたといつても過言ではない。そして文化祭の約二週間後に修学旅行が始まった。

一日目は船で、このときすでに数組のカップルできており、独身者は目のやり場に苦労したようである。二日目(四日目までは、ほとんどバスに乗ったが、M氏はバスガイドにほれこみ、Y氏はゲムでのりにのっていた。またキヤグ、陰語の類も多く表われ、「○一族」や「××ベクトルII」などのかなりナニの方面の話も多かった。

しかし、クラスの人間と腹を割った話をしたことなどが楽しかった。帰りの夜行の中でも、数グループに分かれて男女入り乱れゲムをしたが、時にはかなりきわどいシーンもあった。(何故か筆者が関係したのが非常に多かった。)この客車で、筆者はA氏とともに大阪不眠の会を結成したが、これは筆者が五時半でダウンしたため即解散となったようである。ところで、帰阪後、六組は、球技大会では即敗退のダメクラスになりさがった感じがする。しかし、六組の唯一の誇りとして「シラケター」という言葉がクラスに充満している時は、全員、特に男子がのっている証拠だということがある。以上、つまらない紹介文だったが、それは紙面の少なさと筆者の文才の低さを考え、御許し願いたい限りである。

二年七組

クラスシヨウカイ。企画見届舌。彼にこの企画する能力あるか？

「おい四鹿輪まだ一時間目やでノ」倫社の時こんな物回すをノ

「おい夜詩皮もう二時間目やでノ」守他、阿部静江は総入れ歯ノ

「おい喜可和副官マイテイやでノ」カマボコ入ってへんやんノ

「由革クーンしっかりしてノ」フックパス、スケアパス、深呼吸。

平背・吉河両氏二尽キタ一年也。体育だ、苦喜だ、におつてくる。

大咲よノああ……。またいつか。「苦喜、ワイセツな顔するをノ」

「ねむたいな」これ複言。「与四飢ヒワイを事しやべるなノ」

○月×日、平背沢汚の誤り二つ。「朝だ、八

四六、ピンとタテノ」ふられふられと言うを

ノ失恋同盟「平背のノート燃やしてしまえ」

イサーリッファイリーフシューテル「日本列島

沈没どきよノ」忘れえぬスボンつり、ワイン

色ノ「官舌、次の授業なんやった？」「良河

君で15枚、副官吉皮君の3」「計算はね、家でやっどくように」

「五重丸しとかなあかんですよ」「おじさん、靴みがかせてよ」

「一番早く帰るのは、私なのです。「僕にはサッカーがある」

「もう一度言って下さい」「霜群、足どこや？」「がんばろうノ

「八四六、牛乳ビンの底はずせ」私にはオポレオンが生きがいよノ

ストロング、ルーシー、マリリン。「おい余死皮そうじゃでノ」

「読み方のわりに訳がうまいね」文化委員こんな書かせて怠慢や

出ていきなさい。君はなんだ。こんなもん一人でやらなあっかあ。



二年八組

頃は某月某日、四ツ時のことでございます。

近代建築学の粋を結集した、ひときわ目だつ

「立派な建物」というのは、はるかにしえ

のお話して、今日では見るに耐えないオンボ

ロ校舍、有形文化財に指定されてもおかしく

ないような、そのおちぶれたタタスマイに筆

者は思わず目がしらが熱くなるのを感じるのでありますが、その我

が母校のあるクラスの実態を、涙をのんであばく使命に筆者は立た

されたのでございます。時は、三時限目、数学。日先生の、手に汗

握る熱烈な講義に、目をさん然と輝かせ聞きいつている者も見あた

らず、筆者はこの原稿を前にして、ひとり悪戦苦闘しているのでご

ざいます。思いおこせば、非をうつすべなき恥の教々。文化祭、各

人おのれの羞恥を抹殺し、ひたすらハジの極限を追求した、かの活

動大写真「孫悟空」で、校内に笑いの旋風をまきおこし、一躍、ウ

ワサと非難の的となったのでございます。わが御大、綿谷先生をも

ってしても、さばききれなかったこのクラス、衆担任紹介 御存じ

綿谷氏は保健。体育の権威者であり「保健の傾向と対策」や「チャ

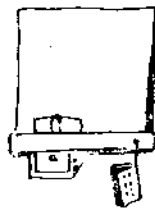
ート式保健」の執筆を依頼されたとかいうほどに精通しておられま

す。とにかく、わがクラスは、遅刻をしたり、授業中居眠りする者

は皆無に等しく、前代未聞の秀れたクラスでございますましたと、ウソ

でもいいから、言ってみたいものでございます。なにはともあれ、

一年は過ぎた。同志よ、ふんばれノ「歡喜雀躍、今、春の日なり」

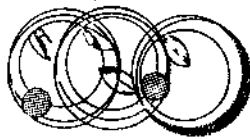


クラスの雰囲気というものを決定する重要な要素はもろろん生徒とその担当の先生がたなのだが、H R 教室の地理的位置も、相当影響があると思う。うちの場所は、三十一番教室、即ち音楽室の隣だったんだ。だから、他の二年生から隔絶されたことはいうまでもない。「平和の里」だった。トイレからも遠い。食堂からも遠い。職員室からも遠い。物理研究室からも遠い……。

その昔、クラス分けの発表があったとき、新二年生の女の子たちは、二一九の女の子をうらやましがったものだ。この前、九組の男の子がしみじみ、うちの組は女に恵まれてると言っていた。要するに性別を問わず、個性の強いのが集まったんだ。

自治会祭でちよっとしたことを金蘭会館でやって、大衆賞もったり、文化祭なんかでも「ものうり」やったり。修学旅行のときもクラス単位としてはかなりのってたみたいだったし。スポーツ関係はなんか、もひとつという感じだったけど。そうそう、自治会の副会長、前後期とも二一九出身。代表会議議長もいれて、前後期で八人も本部に人材を出してたんだ。

ところで、うちのクラスは、日頃、温厚と目されるA先生、R先生、M先生なんかは腹をたたせたこともあった。反省すべきである。数学はダメだったが、物理の平均点は、常に学年平均を大幅に上回っていた。書き遅れたが、うちの担任は物理の上絵良雄氏だった。



女生徒に告ぐ

今の世の中で、あなた方ほど力の強い者は、いないのではないでしょう。バスケットボール大会での、あのボールに対する執念を見て、私はただ身震いするばかりであります。これほどパワーフルなあなた方と生活する私にとって、その恐怖たるや、口では言い表わせません。もはや真の日本女性の姿はなくなったのでしょうか。貝原益軒の書にこう書かれています。

凡婦人は、柔和にして人に従ふを道とす。……父の家に存りては父に従ひ、夫の家にゆきては夫に従ひ、夫死しては子に従ふを三従と云ふ。幼より身を終るまで、我儘に事を行ふべからず。

(和俗童子訓)

私は、ひかえめであり、それでいてしっかりした女性を求めているのであります。女性の思いやりなくしては、私たちは大成することはできないのです。山内一豊が成功できたのも、内助の功のおかげなのです。海老茶式部殿、この暗闇の中で、光り輝く太陽となつてくださることを願います。

「三年一組のある男生徒の手記より」

男生徒諸君！

今こそ立ち上がる時がやってきたのだ。男損女肥の世界を打ち破り、男尊女卑の世界を造ろうではないか。  
団結。団結。団結。団結。団結。団結。団結……

三年二組

拜啓 今年もおしつまってまいりましてスプリングの原稿をか  
くところとなりました。例年のようにクラス紹介をおつたえします。

○三年二組

○担任：岡田忠良（おかだただよし）；理科（化学）

○理科系世界史組・男子28名女子21名（文系の中にはいます）

○校内大会における優れた成績

男子バレーボール大会校内1位

女子バスケットボール大会校内1位

男子サッカー大会学年2位

○学年大会（何のことかわかりますか？……年3回ぐらいです）

個人の部は、なかなか優秀

団体の部は、普通のでき。

○校外教授（春）

奈良でハイキング。池の泥の中にはまった人数人。

○校外教授（秋）

京都市中を見物。途中で男女ばらばらになってしまいました。

岡田先生が必死でリードして、ついていくのにせいいっぱい。

その他いろいろありまして、あと二カ月にまりました。

敬具

やまひのところで

みしらぬ人へ

三年三組

我が三の三たるや平の如し。何も担任の名をあげているのではない。授業中は睡魔が横行し平原のように静かである。質問する人も舟を漕ぐ人も決まっている。視覚的特徴はない。三の三の特徴は鼻的及び聴覚的特徴である。あの一味（Monochrome）にんにくおじさん（Mr.）の発する二オイが皆に嫌われている。この小野先生が「この奇声を発して心臓のとまる思いをさせる。あの小野先生が「優勝すり。」（「しまし」なんてもう古い）といってくださった組対抗歌合戦で三位をとれたのも、彼のおかげである。男連中は日々わいわい談に花を咲かせているが、運動会は誰かのキヤグでボロボロ。あっそれから排球は全校優勝したんですが遠い昔のようで……男連中は結構仲が良かったんですが、女の子（お女性）は非常にみんなおとなしかったんです。（ここに言論規制が行なわれていることを銘記されたい）……三年なんてあっという間。受験勉強は人間を工ごにするだけみたい。もっと人間的なつながりが欲しかったと筆者は考えるのであります。これを読む頃は？なんでしょうが卒業しても思い出は大切にしたいですなあ。最後に我がクラスの一人君へ、買けずに一年がんばって下さい。……うつろな六時限目。当世の紙不足のせい、み氏はきょうも腹をおさえている。前方の発光体がまぶしくて黒板が見えぬ。ムムあそこ子守りをしている女が見える。あれは10年後のAさんだ。おしまい

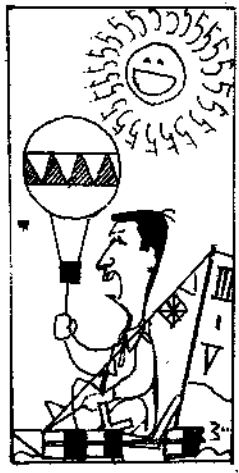
三年 四組

春、組換発表に際して我悪友曰く、「世、此組ならヤレルノ」それは、18姫82野郎の構成に存ると言う。(小生、此時何をヤレルのか、確かめておくべきだったのにー。) ままよ、不思議か太陽か、サントクジュバリの教訓は生きていた。物事、外見で判断しちゃいかんだ。そもそも我組の姫達がそれを物語っていた。ボカッノ痛(小生執筆中姫に襲われ、三ヶ月の痴呆症。これより嫌考筆。)

そんな訳で、春以来無冠の帝王、勉学でも、学年最下位を死守。されど、晩秋に至りて、我最悪友曰く、「此頃四組狂咲。蹴球優勝するし、最下位脱するし、その為、社会不安招いてるのちやうか？」と。いや驚く事はない、諸君。我々は、スーサンの時間の緊張(△を除くと、一般に恐るべきらしきもなかった。)を、順次我々の生活に浸透させていったまでである。恐怖の難関を共に味わった弱者の連帯は強い。それに、餃子と百恵がからんでより円滑になった成果なのである。今や、試験場における度胸を十二分に養った四組連は、知力の鍛練に取組んでるのだ。(他組とは、独立事象ノ) 冬。この酷しさに、四組連、18姫82野郎は、少しはマンガも見、ちよっぴりは♡もするけれど、いい方にヤレソウノ 新年、少なくとも一まわり成長すべき正月。そして、一年目の春、大きな飛躍をしている事だろう。そのとき我、その暖かき陽光の中に皆の幸ある顔を懐しまん、恩師庭野先生を真中にして。(病床より小生曰く嫌考の駄文連筆の為、四組の雄大なスケールを描き出し得ず、脱稿も遅れ、末尾に来たる事を、四組連に陳謝して、この筆を置く)

三年 五組

こんな「高校三年生たち」が今までに存在したでしやうか？ ちよっと見ては何の変哲もないが、わが3ノ5というクラス、一旦その一人一人が団結するやいかに恐るべき力を発揮するか、それは、この一年であまねく天下に知れ(痴れ?) わたったのではないでしやうか。手初めは自治会祭アイデア賞に輝く大紙芝居『敦煌』ノあの感動的大ロマン、超下級スパクトルが、中間審査後わずか三日、突貫作業、ぶっつけ木番の成果とはノ ところが、二期、文化祭、その上をいく大快挙。これぞ本校初偉業、空中及び水中一大シヨ(〇〇〇劇場のCM、筆者相当悪のり) 人力船と熱気球による一大パージェントだったので。なんと、公開前日まで材木にすぎなかつた船は教頭、S、O 諸先生方を狂喜させ、一方、幾多の難関を経ながらもみごとに浮上した気球は、大観衆をして呆然自失せしめたのです。と、ここまではよい点ばかり、さて、いよいよ週刊大衆的汚点暴露、その名聞くだに身の毛もよだつげ。ナポレオン、ファミリー。暇さえあれば切り札おスベ(スバードのこと) 副官マイテイと呼び、緊縮令も馬の耳、日夜、手製トランプに明け暮れる、これぞ3ノ5大汚点ノ 以下、汚点あまたあれ、紙不足のおりもあり、残念ながらこれまで。リラバ。



三年 六組

I というやつに言わせると、ぼくらのクラスっていろいろのはなかな  
かいいクラス—まあ相対的に言ってる事なんだろけど—だという  
ことになる。いわく、ぼくらは確かに、和気あいあいという雰囲気  
やない。けど、やっぱりそんなもの作り物臭い、一種の欺瞞や。み  
んな利己的かもしれんけど、自分の事は精一杯やってるし、絶対に  
だれてはおれへん。他の馴合いクラスよりどれほどましか。ぼんま  
そう思えへん？ ぼくらは、やっぱり自分は三年だという事を素直  
に認めなあかんよ。その点でも及第やと思う、ぼくらのクラスは。

二ノ六っていうクラスは、いわばそんなクラスなんだけど、ぼく  
もこのクラスには小さな期待みたいなものを抱いているんだ。その  
期待は、例えば、体育祭の時思いもかけず全校三位になった事や、  
紆余曲折を経ながらも文化祭に参加して、或る意味ではすばらしい  
成果！つまり心の問題としてのIをあげた事によって徐々に確信付  
けられていった。そしてその期待とは、クラスのみんなは内に秘め  
たるバイタリティ、さらには誠実さ、そんな物を持っている。文系  
で女子の方が多から温和しいけど本当は強いんだぞ—といった物  
なんだ。だから、現状がこうあるのは、三年の宿命か、ひとえに会  
長であるぼくの責任によるのだと、反省せざるを得ない状態に陥る  
まあ、ともかくこんなクラスなんですと書いてもいいだろう。確  
かに地味だけれど、着実に一步一步進んでいるクラス…。いやクラ  
スというより四十六名の個人の集合体。だけどなかなか居心地のい  
い所でありませぞ。

三年 七組

先ずは担任の小野先生からしてみよう—  
頭はバサバサで、一見風采はあがらない。  
授業はよくわかると言う奴も居れば、何も授  
業だと言う奴も居る。女生徒にはとても人気  
があるようだが、男子生徒には、それほどな  
さそう…。(余り対話が無いせいかな、それと  
も私恨からくるのか)。だが第三者から見れば非常に生徒思いのや  
さしい先生だと思いが…。(と言葉を濁す。)



次に、このクラスの雰囲気をよく理解してもらおう為に、政経の上田  
先生の授業を描写してみたい。授業が始まるや否や、生徒HとIは  
気遣いの様に上田先生の話の聞き入る。U君はHさんの事で頭がい  
っぱい。T君は隣のKさんとごっこ遊びを始めた。級長は早くも寝  
ている。しばらくして上田先生がジョークを飛ばした。みんな笑う。  
ところが、N君は授業を聞いていなかったのでみんなが何故笑って  
いるのかわからなかったが、そんな事を先生に悟られてはなるまい  
と思いつつに笑い出す。先生はす早くその笑いの中に欺瞞を見つけこ  
タツと笑う。N君はバツが悪くなり隣りのYさんにニツチンバインバ  
イをする。そうこうしているうちに数名の生徒が深い眠りにつき、  
そして終わりのチャイムがなる。

筆者は、このクラスの雰囲気が好きである。そして個々の人達も  
この一年を振り返って見て本当に楽しい仲間だったと思う。又みん  
なもそう思っている事を願う。七組ばんざい。



浪速なる国、大手前の城のほとりに、いとやんごとなき姫たちつどいたる二〇四の学舎あり。いと美しく、やんごとなき姫たちをれど、従ふる男の子ども、いとむくつけき野郎どもなり。されど、この学舎の住人ども、若葉香る水無月の頃、自治会祭なる催しにて、『歌劇 お蝶夫人』を演ずれば、大衆の称賛、はなはだしく、自治会祭大賞を獲得せり。そのをりの姫たちや、野郎どもの心一つにせし業、まことに美しくあはれなり。

師の君は、切れ長なるまなざし、白き顔、まことにいれしへの業平朝臣も、かくばかりかと思ふなり。されど、師の君、文学の道、窮めたる人なれば、従ふ弟子ども、男女を問はず皆、心算かなる者ばかりにて、再び、菊香る神無月の頃、文化祭にて、異國の作家、サンテクジュペリの「夜間飛行」なるもの、弟子どもの手にて、劇化し、上演せり。世の人、絶賛し、拍手なりやまず。まことに、いとをかしきことなり。

みやびやかなる姫たち、鶴入れ瓊遊びなどは、品低き人の業なりとおぼしめすらん、地下一回戦にて負けたまへども、いとすずしきさまなり。續きて、野郎ども、かの姫たちに劣るまじきさまにて、蹴毬などもひなびたる遊びと思ひてか、勝ちを譲りて、いとゆかしくふるまひたる。

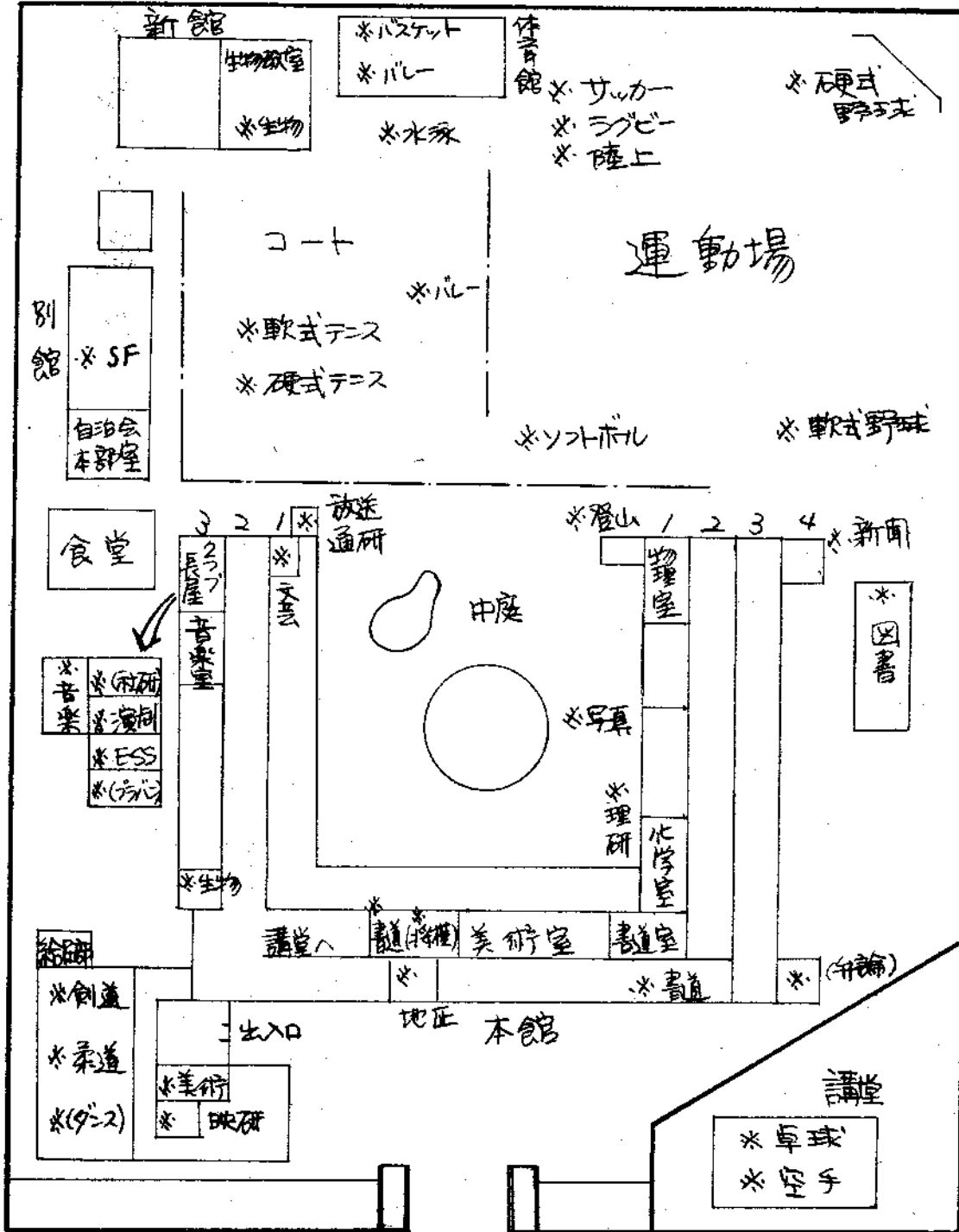
あな、をかし。あな、をかし。

(飛鳥日記より)



朝、教室に入るともう彼女が来ていた。「おはよう」と挨拶はかわしたものの、二人だけで教室にいるとはどうも妙な気分がするものだ。「もう卒業か。大手前ともさよならだな。三年間、早かったなあ。」と一人言ともつかずつぶやくと、彼女はこちらを振り返って「この一年間どうだった」と尋ねてきた。内心しめたと思ったが顔には出さず、「うん、最初の頃は九組はおとなしい、言い替える」と少し活気のないクラスだと思ってた。自治会祭で喫茶店をした時も少し盛り上がり欠けたよりだし。でも、お互いがわかってきたのかコーラス大会の時は違ってた。全音楽履修の強みで三年としては異例のクラス単独参加を決めて、毎日毎日よく練習したと思うよ。優勝した時は嬉しかったなあ。まあ、体育大会の怪りはもう一つだったけど」「そうね。まとまりがよかつたわね。教室が金魚鉢のせいかな」「たしかにここは一等地だ。よきにせよ、あしきにせよ他のクラスの影響は少なかつたし」「それに文科と理科の混合クラスなのよかつたんじゃない。それぞれ持つ雰囲気の違いが溶け合ってたみたいで」「だから他のクラスと違った独特の落ち着いた雰囲気は九組にはあったんだなあ。南先生も言われたことだけど、卒業したあともこのクラスが一番集まりがいいんじゃないかな」彼女は何か言おうとしたが、ちょうどその時、クラスの連中がやってきた。「おはよう」「おはよう」にぎやかに話した。窓から外を眺めると今日は快晴だ。彼女の方を見ると、やはり窓から外を眺めている。さあ、今日も一日が始まるぞ。

# 大手前クラブ分布図



# クラブ紹介

一部有志

## 演劇部

友だちの中に、何故か演劇部のことを、「エンゲイ部」と呼ぶ人がいます。エンゲイという、何かしら「お笑い演芸会」、といったような感じがしますのね。

さて活動は、一学期のうちは発声練習・本読みをやりまます。そして夏休み頃から、文化祭の劇の練習を始めますが、実際この時期が一年間のヤマといえる時期。今年は、鑑別所を舞台とした、決して喜劇でない劇をしたのですが、「りんど」のわたし方がまずかつたために喜劇的になってしまった。だから「エンゲイ部」といわれるのでしょいか？役づくりのため、髭芽衣子の真似を、必死にしたことを思い出します。ともかく、劇のすきな人はどんどん入部して下さい。初心者だからと気にする必要なし。私は高校になってやり始めました。ひろみや百恵ちゃんも、しろうとでドラマに出てるじゃないですか。演劇によって、自分でない自分を演じるのは、本当に良い事だと思います。

## 登山部

登山部とは山に登るクラブです。部員は少数の例外を除いて、成績優秀、頭脳明晰、家内安全であります。どのような山に登るかという、普通は毎月一回、大阪周辺の例えば六甲、俱利伽藍、比良、龍門、高見山、葛城、金剛、などへ行き、合宿は年に四回春夏秋冬に行っています。去年夏の本合宿は、長野・北アルプス方面へ前例にない男女混合合宿で行程には、槍、奥穂、笠など雄大な山々でしたが途中キヤク奮発の連続でありました。普段の練習といえますと大阪城の周りを走ったり、またある時には重量四〇キログラムの砂袋をかついで歩き回ってみたり、大阪城で料理を作ったり、その他モロモロなのです。山の好きな人、興味のある人は、ぜひ一度来てみてください。

## 剣道部

おれの名は剣道部。848年度は新人戦ベスト8・インターハイ、ベスト8対戦成績26勝6敗。大阪中の剣道野郎どもがおれに血まなこところがこれが負けななんだ。まア自分で言うのも何だけど、狙った大会は必ず上位進出する泣く子もたまる名クラブ、それがこのおれ、剣道部だ。

宮下昌弘：おれの主将。早打ち。三秒の達人。義理堅く頼れる男。副主将須佐美隆史：ニヤリと笑って人を斬る。美女を恋人に持つ男。松尾雅司：中学時代は大阪府大会準優勝。試合前の落ち着きは見事。宇野知之：頭脳明晰。心理的效果を突く剣道。だが女には弱い男。絹田洋一：胴打ちの鬼とまでいわれ、五秒で二本勝ちの伝説の男。天野祐一：大試合に強い男。小手打ちの天野で有名。謎の女藤本泰子：いつもひどい目にあうがにくめないんだなあ。

おれは力ワイ子ちゃんに弱いからな。さあてさてこれら一癖も二癖もある連中に囲まれて今日はどんな練習が始まるかなあ。

## サッカー部

サッカー部。この集団を表わすのに、「ファミリー」以外の適切な言葉があるでしょうか。まさにサッカー家族なのです。がのお強いラグビー部が必死で練習しているのを構目に、常に自分をかわいがり、みんなサッカーを楽しんでいるのです。サッカー部からは、笑いが絶えたことはないのです。それでは、家族の構成員をご紹介します。さしう。驚異的セーブ、驚異的ミスのGK、U君、かき言ひ不肖筆者、密着マークの名人、怪物S君、白痴G君、カク言ひ不肖筆者に驚意の30度シートをつまざしたI君、先日の初得点に涙を流したS君、ドリブルと玉乗りの鬼K君、目を見張るヘッド、目を見張る短足I君、一人言のお好きなウイングE君、アシストを誘うセンターA君、そして唯一の一年F君、レフエラーしか紹介できないけれど、魅力的な人物がもつともつといるのです。ファミリーサッカー部、紳士のサッカー部、頭張れ、近畿大会はすぐそこぞ。

## 吹奏楽同好会（ブラバン）

大手前高校吹奏楽同好会、今や、君にチャート、先生に生徒、我校にブラバン、なくてはならない存在である、と信じている。同好会だから他のクラブに比べて全ての面に於て劣っていると考えておられる人もいるだろう、実際、同好会故に経済面に於ては自治会か

らの貴重を備少の援助に依存しなければならなく、また練習場所も我々の手で確保しなければならぬ。しかし、文化祭、予後会等に積極的に参加し、他の充実したクラブにも決して劣つてはいない。一日の内容は8時から朝練、放課後5時頃まで個人練習、合奏と並んでいる。少しきついと思われ人もあろうが、朝早くすがすがしい空気を吸い大阪城に向つて吹きまくるのは何ともいえない爽快さである。常に理想を高く掲げ我らのる日、ベイトーベン、ピートルス、バカラツクに迫り、その精神を知ろうと日夜努力しているのである。音楽の核心を知ろうとする同志諸君、来られ同好会へ。

## 陸上競技部

グラウンドに一際映えるカラフルなウエアをつけ、疾風が如く走っている集団、それが、今最もアクティブな存在として注目されている陸上競技部なのです。我々は、明日の陸上界に不滅の金字塔をうち立てるべく、日夜練習に練習をかさねているのです。

話は変わって、ウント年の歴史をもつワガ部も少しずつ変化を見せ始め、昨年はついに新しい統一されたユニフォームが決まったのです。大体の所を申しますと、上は黄色をベースに大手前とくつきりネーミングされたランニングシャツ、下はエリガントな赤にまぶしい白のラインの走るパンツという代物で、鮮やかな原色をナウなセンスでまとめたこのユニフォームは七三年高校陸上界の話題を一身に集めたものでした。

最後に一言、陸上競技をこよなく愛す我校の男達、女子もいるよ。うですが、の非常且つ冷酷な記録との戦いは今日も続いているのです。

## 水泳部

わがクラブは、励まし合いみんなががんばろうといった感じのクラブである。それほど工夫もんでもないが、しかし、そうあるべきである。そして、伝統的にもわきあいあいとしたクラブだとされている。その上、数年前は強かったと言われている。今は、定期戦に勝って大喜びし、「おむれるライオン」として悠然としています。が、きみたち一年生またその後にはいつてくる水泳部員を鍛えあげようと、かように考えております。水泳は全身運動だからあらゆる筋肉を養います。そして、精神力は強く強くなるでしょう。苦しいことよってできた精神力は、どんな困難にも負けない強い強いもので、この人生において幾度も自分を救ってくれるでしょう。それから、クラブによって人間的にも大いに進歩します。あなたに近い将来、きつとこう思うでしょう。「水泳部にはいつて本当によかった」。と。

## 地理歴史研究部 (子レキ)

正確に言うと「地理歴史研究部」。部室は本館三階、三一〇番教室前(金魚鉢)。活動日は、月、水、土。活動内容十月ごろまでは、文化祭に発表するための共同研究の準備が中心となる。共同研究のテーマは、「大化の改新」「大阪城」「大阪の寺」など、毎年話し合いによって決められる。この共同研究は、どうしても短期間ですることになるので、かなり忙しい。文化祭が終わると、個人、

あるいはグルーヴ研究中心。仏像でも寺院建築でも大阪の地理や歴史でも、テーマは自由。好きなことをすればよい、という事になっているのだが、「好きなことをせえよ」というと、すぐ、クラブに打ち戻したり、世間話して花を咲かせてしまふのが現状。その他、毎月一度、京都や奈良の古寺を見学したりするのも主な活動の一つである。では最後に一言。地歴部に入つて、雑学家になろう!

## 男子ソフトボール部

ソフトタッチのハードなスポーツ。最近ますますポピュラーになってきたスポーツ。そう、それがソフトボールだ。しかし、本校においては、クラブ員の異性は女性(のはず)である。大阪府下で男子のソフトボールクラブのあるのは二十校程度。そして、春の大会での上位二チームは、全国大会に出場できる。しかるに、当の大手前は? ああ、まあ聞いてくれ給え。例年、本当にあと一つ勝てば全国大会出場というところで、惜しくも涙をのんでいる。また、全国大会に出れるのは春の大会だけだが、他に夏と秋にも大会がある。昨年はやや振わなかつたが、一昨年は春と秋に府下三位になった。今年も、新一年生諸君をメンバーに補強して、宿願の全国大会出場権を得るのだ。さあ、君も若いエネルギーを、共にこのソフトボールに爆発させようじゃないか。

## 軟式テニス部 (ナンテイ)

わが軟式テニス部は二日に一度大手前の白線に囲まれた赤土の上

に出現し、他の日は大阪城を飛ぶように走り回っているのです。そして毎日るふきでる汗、みなぎるフアイト、熱く燃えあがる血によつて部員は燃える炎の魂となつて過ごしているのです。このようなすばらしい文句が続くと筆者もわがクラブを見直さなければ。

さてここでわがクラブの数々の特徴からいくつかをPIERCEしよう。第一にわがクラブには先輩後輩の壁がなく気軽に何でも先輩に相談できるのである。だが決して先輩を軽んじているのではない。われらはある時は鬼のごとく怒りある時は仏のごとく見守つてくれる先輩に大いに感謝しているのである。第二にクラブ内には明るいムードが充満しており、全員何をするにしても明るい気分ではなければと思つていのです。第三に美人が多く校内でも軟庭の女は美しいとの噂である。

## 柔道部

現在、部員18名、初段9名二段3名。戦力強化著しく、第2期黄金時代を現出せんとしています。男子たるもの一つの格闘技を身につけておくことは必ず必要です。その点柔道は、戦闘性は優秀ですが決して攻撃的ではなく、格技として必須だと思われまます。

## 新聞部

四階に部室があるのです。物理教室横の階段を足を強くしながら四階まで上つて下さい。そこに大手前最大のマスコミ機関、新聞部が存在します。文字に強くなりたい人、是非一度来部。

## スポーツ大会記録の表彰

47年度	ラグビー大会	全校優勝	一ノ一	第二位	二ノ六
48年度	北野交歓	男子	35勝47敗	女子	24勝29敗
	バレー大会	男子6人制	全校優勝	三ノ三	二位
		男子9人制	全校優勝	三ノ二	二位
		女子9人制	全校優勝	一ノ六	二位
		サツカー大会(男子)	二ノ二	三位	三ノ九
		バスケットボール大会(女子)	二ノ四	二位	二ノ五
		体育大会	二ノ二	二位	一ノ三
		全校優勝	三ノ二	二位	一ノ四
		全校優勝	二ノ六	二位	一ノ四
		特別賞	三ノ一	「応接歌」	
		大賞	三ノ八	「お蝶夫人」	
		大衆賞	二ノ九	「演芸会」	
		アイデア賞	三ノ五	「紙芝居」	
		新人賞	一ノ五	「喫茶室」	

# 文芸

## ウランバートルの春

中原 ゆかり

氷雪は嵐と共に吹きすさび

八つの地方からびよりびよりと驚いかけた

幾たびも体を地にすり寄せ樹にしがみつ

一心に堪えては来た

それでもとどきは黄昏の空を仰ぎみては

あのなつかしき鐘の音をさがし求めた

嗚呼……全ての屈従に私は堪えかねた

芝の芽が、

自由のどん底からまたも伸び上がるうとして

吹きすさぶ嵐はそれを許さぬ

燃えさかる炎に、今、私は身をゆだね

その炎は今 尽きようとしている

そしてウランバートルの春はまだ遠い

## 戦士

中原 ゆかり

戦士は倒れた

敵の撃つた一発の銃弾の為に

黒い銃の引き金は引かれた

冷たい銃から離れる弾の冷たさ

無限に延びる赤い糸

夜になれば狼が吠えるこの荒野に

また一人、戦士は倒れた

毎晩共に泣き、共に慰めあつた二人の戦士たち

その一輪が今、荒野に舞う

一瞬ゆがむ彼の顔

戦友の滑らかな血で染まつた額を拭いてもせずに

彼は突進する

彼の耳にはもう、味方の笛も、敵の銃声もない

ただ空虚と怒気のみが彼を支配する

彼は突き進む

枯れた荒野を

眼前に揺れる敵の軍団

彼はもう臥せることを忘れてしまった

彼は突き進む、殺気を切つて

また一発の銃弾が放たれた。  
黒く冷たい一発の銃弾は飛ぶ。  
またも無限に伸びる赤い糸。

今なお、狼が吠えるこの荒野に、

二人の戦士は眠る。

そしてその赤茶けた荒野には

今だに緑の雑草すら芽を出さぬという。

## 赤か黒か狼か

阿南真理  
池田千鶴子

庄司薫が『赤頭巾ちゃん気をつけて』で芥川賞を受けてから、四年が過ぎた。五月に出た彼のエッセイ集『バクの飼ひ主めざして』の書評に、「以前若者に圧倒的人気のあった」などという形容がつくほどになってしまった。

彼には四部作の計画がある。即ち「朱雀」「白虎」「玄武」「青龍」の四神をあらわす四色を象徴とするもので、最終作となるべき「ぼくの大好きな青鷲」は未発表である。他に単行本として「喪失」「狼なんかこわくない」がある。今、我々の周辺ではどの作品がいちばんいいか、論争がさかんである。そのうちでもほぼ「赤頭巾ちゃん気をつけて」「さよなら快傑黒頭巾」「狼なんかこわくない

」の三作にしばらくは読まれるようだ。処女作品集「喪失」は「若々しさのまつただなか」で書かれたそのために、現在そのまつただなかにいる我々にはまぶしすぎる、といった感がある。著者自身、客観的に書こうとして書けず、読者である我々も客観的に読もうとして読めない。気はすかしいとでもいうのだろうか。「白鳥の歌なんか聞えない」はテーマがあまりに明確なため、やや書き過ぎという感じがする。それに比べて、右の三作は作者が *esbajima* したためか、まぶしすぎるといふことはない。距離が適当なのだ。次に、赤派、黒派、狼派のそれぞれの主張を述べてみよう。

「赤」は、東大入試に遭遇した東大受験生である日比谷高校三年生、「薫」の「二月九日」を描いたものだ。だから、当時の受験生の心情を代弁するものとして高校生に熱狂的な支持をもって迎えられた。しかし、今なお盛んに読まれているのは、普遍的な問題を含んでいるからである。それは何か？「ゲバルトにも負けず、女の子にも負けず、男の子いかに生くべきか」と単行本の帯にある。これは的を得ている。「喪失」で描かれたテーマをのりこえ、「やさしさ」を持って生きるという結論に達している。現代の文学で次第に描かれなくなったこの「やさしさ」が我々にアビリティするのだ。

我々には他人を押しつけて生きる、という姿勢がいつのまにか身についている。即ち、他人への思いやりを失っているのだ。懐古的だ、という人があるかもしれない。しかし「赤」が我々を魅きつけてるのは、まさに我々が「やさしさ」をとり戻したい願望を持っているからだ。「赤」はその意味において「やさしさ」の魅力を十分に描ききっている、と思われる。



「黒」では「黨」たちの同窓会のこと、そして彼の兄の友人であり、青医連の元闘士である「山中さん」の結婚式のことがあつかわれている。そしてこのモチーフは、「青春の理想の幻滅とその挫折」なのだ。「黨」にとつて、若さと知性の象徴ともいえる兄たちの世代、即ち安部、全共闘世代の後退と崩壊であるとさえ言えげないすきだるうか。彼は自らの悪酔いに耐えながら、二日酔いの彼らのため、牛乳を持つていこうとする。これが「若さ」といえる。

「赤」で描いた男の子の生き方、「白」で描いた若さの抵抗、これらを踏まえて、ここで、庄司薫は現実の「若さ」を冷静に眺め、考えさせる。そのとき、我々は、時間の流れを全く意識せずに、あるまじきまじきをもつて、自分自身の現在について考えを巡らせたりもする。もちろん、これは二次的なことであるが。

「若さ」は常に急がずかじさに満ちている。その急がずかじさを捨てたとき、作者の表現を用いれば、「大好きな快傑黒頭巾にさようならする」ように「ぼくがぼくに別れる」とき、「青春の挫折」は明白な事実となる。このモチーフを、彼は、厳選された主観的事実によつて表現したのである。

「狼」は「若々しさのまつた中で犬死しをいためた方法序説」というサブタイトルがついたエッセイで、小説ではない。だから狼派は赤派や黒派とは多少趣を異にしている。庄司薫を読む誰もが、「喪失」と「赤」の間の十年間、彼は何をしていたのか、という疑問を持ち、その謎解きを期待して、「狼」を読む。ところが具体的な答は何も得られない。しかし「純粋さ」についてのエッセイ的な意見に強く魅せられる。「若さ」「純粋さ」というならば、「人間とい

うのは要するに成長するにつれてその純粋さや、誠実さをどんどん失つていくわけで、いわばひたすら墮落してダメになつていくことになる。……これでは、ぼくたちの立つ顔はなにかいかにいうわけだ。これを読む時、「若々しさのまつた中で」で「自分自身というべき恐るべき最後の『狼』を相手に悪戦苦闘している読者は思わず喝采する。そして、戦い抜いて行つた先輩である作者に猛烈な親近感を抱いてしまふのだ。

以上、簡単に各派の主張を要約してみた。「赤」のところでも少し触れたが、庄司薫の作品に共通するのは「やさしさ」である。それを「甘い」とか、「軽佻浮薄だ」とか評するむきもある。だが、「やさしさ」をこれほどみごとに表現しうる作家が他にいるだろうか。彼のめざす主題を描くのにその文体は適切だ。テーマにふさわしい文体が選ばれている。

我々は庄司薫に対してこのように共感をよせている。「青」の発表による四部作の完成が待ち望まれる。

さて、纏折れをひとつ。

世に問わん 赤か黒か狼か



修学旅行名句選

西海 上 産

森 延 哉 選

瀬戸の帰うすき紅葉や旅初口

二ノ五 川畑 茂

瀬戸内のやみ夜にひひくハイモニカ

二ノ三 川口悦穂子

音もなく闇が助いて船ゆけり

二ノ五 柴 十糸子

夜の瀬戸死を叫ぶ世界その波州

二ノ一 井藤 眞了

石仏にのこれる音赤き色

二ノ九 長谷川素子

千年の時を見つめる石の首

二ノ五 山本 昇

乳色に冷たき荒風連洞

二ノ四 米谷 昌彦

荒城にゆく秋を知る山もみち

二ノ一 綿木 涼子

秋風のたばむれる友は陽とすすき

二ノ五 市村 圭子

風わたり草の香千里阿蘇の秋

二ノ一 綿木 涼子

草千里風にころがるかいばおけ

二ノ五 尾山 一義

放牧の馬ながめつつきみをかむ

二ノ二 湯 世芬

草千草を雲の影渡りそぞろ寒

二ノ九 山本 圭子

ハンカチを通してこぼれ阿蘇の息

二ノ二 前淵 俊朗

青春の吐息の如し阿蘇のひだ

二ノ九 井元 靖子

みやげ屋のなまりに旅の思ひあり

二ノ二 二松 雅之

大太鼓響きわたれたれや秋の夜に

二ノ一 田中 健彦

平戸城師の水さに家を思ふ

二ノ五 河根 啓介

木々ゆれて天に手をのべ天主堂

二ノ四 刀 圭子

水くれと叫ぶ子永遠にと目を閉ちて

二ノ五 滝井 園子

夜の汽車秋の響さを確かめて

二ノ三 小田 秀治

窓の顔を横切る遠き街あかり

二ノ九 山本 圭子

朝が来て旅の終りを身に植む

二ノ五 柴 十糸子

## ふた 二一 昔前のこと

片山 竜夫

毎年今頃になると米国の友人にクリスマスカードを書きながら、もうほぼ20年前になるアメリカ滞在のことを思い出す。昭和29年の12月の上旬はサンフランシスコから湾をへだてた対岸のオークランド市にいて、カリフォルニア大学へ行っていた。私のいた寮はインターナショナル、ハウスといつて、アメリカの学生の他に、沢山の外国人留学生がいた。私の部屋の窓からは大学のキャンパスの全景が見下せた。右手に高い時計塔（キャンパニーレと呼ばれていた）が立っていた。塔の上には大小さまざまな鐘があつて、一日に三回美しいメロディーを演奏した。9月にワシントンからパークレーへ来て、初めて大学へ行った日に、キャンパニーレから聞きなれたメロディーがきこえて来た。思わず足を止めて聞き入ると、なんと「君ヶ代」のメロディーであつた。外国で聞く君ヶ代、特に10年前は敵であつた国の大学で聞く「君ヶ代」は感無量のものがあつた。

窓からはるかに遠くに、サンフランシスコ湾の向うにゴールデンゲート橋が見えた。橋の柱はひときわ抜んで高くそびえていた。サンフランシスコ名物の霧が海から押し寄せても柱の上は霧の上に出ている。柱と柱の間が1Kmあり、この長さは世界一だとアメリカ人は自慢した。その橋の左にサンフランシスコの市街は広がっていた。丘の上に立っているの、街のいたるところに坂があつた。それも並大抵の坂でない。丁度松坂屋の西の交叉点から大野屋の方へ上る坂があるが、あの坂を長くした様なものである。それがいたるところにあるので市電もケーブルカーであり、事実ワイヤーでひつ

ぱり上げている。古い車体をがたこと云わせて走っているが、市民はこの廃止に猛反対したという。さて夜に部屋の窓からサンフランシスコ市を見ると、市から湾を横切つてオレンジ色のあかりの列がこちらへ伸びている。これはベイブリッジである。サンフランシスコ市と対岸のオークランド市を結ぶ橋で全長12軒あり、当時は世界一長かつた。二階建の橋で上は乗用車、下はバス、トラック、電車が走っている。橋の下は太平洋航路の巨船も楽に通れる。ニューヨークのエンパイアステートビルやゴールデンゲートブリッジやベイブリッジを見ると、アメリカの経済力、技術力、それにもましてアメリカ人がいざとなれば思いきつたことをするのに驚く。日系二世の人から聞いた話だが、戦争中アメリカ軍は謀略戦のために大学出の優秀な将校を集めて徹底的な日本語教育をした。先生は日系人の学者があたり、起居を共にして、日本語のみ使われ、テストに不合格になれば直ちに一兵卒に格下げされ、直ちに前線に送られた。教えられるものは全く生命がけであつた。その受講生の吹き込んだ録音を聞くと、全く日本人と区別がつかなくなつたという。「天皇陛下万才」というような言葉も真にせまつていたという。なかなかきびしい話に次の様なものもある。ボストンにあるアメリカで一番古いハイスクールであるボストンラテンスクールは男子の6年制の学校だが、小学校でAとBの成績の者のみ入学を許可し、1年の終りにD以下の成績をとつた者は文句なく退校という事だつた。この学校はハーバード大学の予備校のようなもので、アメリカをリードする人物が多数出ている。

この学校はなかなかしつけがきびしかつたが、アメリカでは家庭でのしつけはなかなかきびしい。特に小さい子供に言葉使いや食事

の作法や、人に迷惑をかけない、挨拶の仕方などやかましく教えていた。特に人とうまくつき合う事に気をくばっていた。小学校でもパーティを開く時は、男の子は女の子に花束を持って迎えに行き、終れば家まで送りとさけるという様なことを実際にやっていった。高校ともなれば卒業式前には礼装でのパーティが開かれていた。

Her debut along with others が重要視されて、学校も親も気をくばっていた。

紙数もつきたので、とっておきの話を終りにしたい。クリスマス休暇中に私はロサンゼルス、グラッドキヤニオン、シカゴ、ナイアガラ、ボストンを経てニューヨーク州の中央部の片田舎の町モリスビルへ行った。このセントラルスクールに5週間実地見学する為であった。日本人は私以外誰れもない。しかしこの5週間は終生忘れられない楽しい、気持のよいものであった。人々は温かく歓迎してくれた。最初その学校の校長先生の家に滞在した。この先生は戦後すぐに将校として名古屋に進駐したが、ワシントンの政府がソ連軍の名古屋進駐を認めたので、奈良市の郊外へ移動し大阪へも時々行ったとの事で、偶然とはいえない驚いた。在日アメリカ軍の当時の総司令官マッカーサーはソ連軍の進駐に断乎反対したので、ソ連軍の日本進駐は中止になったと云う。これはその校長先生が参謀本部について、その情報を知る立場にあったのでたまたま知る事が出来たのだそうだ。もしソ連軍が名古屋に来ていたら、日本も南北に分断されるか、東西ドイツの様になっていたかも知れないと思うと、全く驚くと共に、ほっとした。一人の人間の意志や判断力が一国の運命を左右するという例を如実に見た思いだった。私達が知らない間に私達の運命を左右する様な事が起りかけて実際は起らない

事が多いというホーソンの Twice Told Tales 中の

David Swan の冒頭の言葉を思い出した。

モリスビルの滞在を終えたとワシントンに帰り、そこからは日本人教師団と一緒に列車で大陸を横断し、サンフランシスコから船で途中ホノルルに寄港して横浜へ帰って来た。

## コンピューターの話

中村 良一

コンピュータとまで言われなくても、公共料金の自動支払から交通整理まで、我々の日常生活においても、いろん所でコンピュータが活躍している時代になってしまったが、コンピュータの超人性のみを知らされ、徒に恐れさせられていると思う。

コンピュータと電子計算機という言葉が、同じ様に使われ混乱しているが、電子計算機と呼ばれるものは、その構造から、二つに分けられると思う。

その一つは、単に計算(四則・平方根等)しか出来ないもの(たしてもダメならひいてみるやつはコレなんです)で、その計算が電子的に行なわれることから、これも電子計算機と呼ばれるのかも知れないが、電子式計算機 あるいは、電子仕掛計算機と呼ぶ方が適切と思う。

他の一つは、プログラム内蔵方式といわれるもので、仕事の手順を記憶することが出来、いざ命令が下ると、その順序に従って、超人的な早さで仕事を処理してしまいます。(この点、先の電子式計算機は計算こそ機械がやっても、仕事の各ステップに人間の手を

必要とする事が大きな相違なのです。)これこそ電子計算機、コンピュータと呼ばれるべきもので、上は大型から中型、小型、ミニコン、それから我校にもある、パーソナル・コンピュータ、さらにその下のものは、先の計算機と共に卓上型であることから電卓と呼ばれている。この種のものなら三十万円程の電卓でも、仕事の与え方次第でいるんを事をするものです。この夏HITAC 8210という小型(とはいえ時代がかつた代物)コンピュータで200560490131(この大きな数が素数であることを発見するまでの経緯を書くだけの紙面がない)という数が素数であるかどうか判定させた。その時に使った時間は百分(このコンピュータ たいしたことない)でレンタル料を計算すると約一万円にもなるが(無論ホクは一銭も払っていない)ソロバンでやると一年でも出来ないから、これは十分採算のとれる金額という事になる。目的と使い方次第で、こんな便利な物はないと思う。

しかし、日常生活で耳にする「コンピュータによる・・・」は、どう使われたか疑問なのが少くない。「コンピュータ占いの」「コンピュータによる性格判断」等々。「ナマエ」といづくかの「ハイ」「イエ」だけでは、人間をいくら分類(何という旨漬)しても百程度だから「スキナ オンナノコガ チカクニ タルト スグニ、エエカッコウ シタガル ホウヂ・・・」という木目の細い判断が出て来る根拠があるんだろうか。「あれは遊びだ」という人もあると思うが、「適性検査」「進路指導」「合格可能性」などでも、たとえ盲目的に信じてはいないにせよ、コンピュータ処理という(宣伝)だけで、何となく信頼度が増すという危険性はないだろうか。今後ともコンピュータの利用法はどんどん開発されて行くだろう。

うが、コンピュータの専門家でない者こそ、正しい知識を持って、しつかり目を光らせていなければ、この有能かつ危険な道具は、少数専門家の思いのままに動く手足となつて何をしてかすか分らない。

## こ と ば

青春の失敗は、壮年での勝利、老年の成功よりも好ましい。

— B・デイスレーリ

人間は歴史を作る。たとえどんな歴史だろうとそれぞれの人が意識し、欲する目的を実現しようと努力するなかで歴史を作る。

— エンゲルス

愛することはお互いにじつと見つめ合うことではなく、二人が同じ方向を見つめることである。

— サン・テグジュベリ

恋というものは、おかしなことに、満たされると、その魅力を失う。

— コルネイユ

いつまでもつづくという不幸はないものなのだ。じつとたえるか、勇気を出して追い払うかの、どちらかにしなさい。

— ロマン・ロラン

世の中には、三種の友人がある。君を愛する友、君を忘れる友、君を憎む友がこれである。

— シヤンプオール

卒業にあたって

## 友への伝言

甲斐登喜子

冷たい北風の中に枯葉が舞い始める頃、公園の木々も鋭角的な線をなして、張りつめた朝の空気の中で震えている。そんな中を、左手の時計の針を気にしながら、重いカバンを下げて走りぬけて行く私には、さわやかな緊張感と快感すらも感じられる今日この頃である。

私の今日に至るまでの学校生活をふり返ると、それはほぼ完璧な演技で繰り返されてきたように思う。私は今まで、多くの友を前にして本当に心の底から自分の考える思想を語ったことがなかった。友から、どうしてそのような考え方を語っているのかと、尋ねられるのが恐ろしかったのである。そして、又、自分の本当の姿を語るることによって、昨日まで仲良くしていた友が、今日私の前から立ち去って行くのではないだろうか。という心配があった。それは、私が、韓国人と日本人の混血児として生まれて来たことや義理の兄や姉たちの存在があることに原因があった。

私がこんな問題に関して、かすかながらも考え始めたのは七才の時だったように記憶する。友となわとびをしていた時に、近所のおばさんが言った。「A子ちゃん。混血の子なんかと遊ばんとさ、」私は母にくだりがした。「ネエ！。コンケツつてなあに？」「ネエ！。なんのこと？」今考えてみると何も知らなかっただけに、この時の私はどみじめなことはなかっただろう。それから十年、私の歩んできた道には、外面で演技してきたものとは全く別の人生であった。

私は、友をよく観察した。そしてその友が、どのような思想を持っているか探ろうとした。そして、私はいつもその友の考え方にありような事柄しか語らなかつた。だから、友が私に、「あなたは素適な友人よ。」と言ってくれても、私が、その友を親友と思うには、あまりに何も語れない立場だった。いつも私は、自分の本心を語り、裸のままてぶつかっていきける友がほしいと思いつけた。だが、高校にはいって、私の孤独感は積る一方であつた。それ故、学校も休みがちになつた。

こんな高校生活の中で、何よりも悲しかったことは、恋愛らしい意味を踏まえた上で、ある青年を好きになつた時だった。私はこの時、初めて、自分自身が自分を差別していることに気づいたのである。青年は、早朝の教室の中で私に言った。「僕と交際してくれ。」だが、私は、その時の喜びよりも、先ず第一に私の性格として、自分の出生を青年に語るべきだと心の中では思いつながらも、またその一方では、それを語ることに、非常な恐れを感じたのである。そんな矛盾した私の気持ちだが、本当にその青年を好きであつただけに、よりいっそう悲しく愚かに思えたのである。しかし、こういう感情は、どの友に対しても、私がいっつも抱いていた苦悩であつた。その日以来、私は自分の心に、一大革命を起こそうと決心した。第一革命は、高二の時から同級であつた友に、(私が素適な女の子だと思つた人)「自分を語ることにした。第二革命は、同和教育において、級友を前にして自分の本当の意見を述べることだった。だが、これはできなかった。私は最後の同和教育の日に、三時限目から、「気分が悪い」と言つて、早退してしまつた。まるでマスケットで万引きでもして、あわてて逃げ出したように、私は、谷四の

地下鉄の駅まで必死に走った。

このまま地下鉄に飛び込んだら！ 死ぬる！！ 死ぬのだ！！

だが、それも私にはできなかった。その夜、私の家の事情を知る友から電話がかかった。「もう気分悪いのをおつた？ 今日日はよ寝て、明日元気で学校においでや。」と、私のために芝居をしてくれる友の思いやりに、思わず涙があふれて来た。第三の革命は、今、この原稿を書くことにある。「スプリングに何か書いてくれなさいか。」という全く思いもかけなかつた事を、友から依頼されて、今まで、醜いピエロを演技し続けたことに対する、多くの友へのおおびになれば、と思つて。そして、この革命を最後に、私は本当に、悟りの境地に達せられるような気がするのである。

私が、今、決して絶やすまいとがんばっている小さな心の灯は、次のようなことを願っているのである。

日本の中には、私と同じ様な立場で、人生を歩んでゆかねばならない幼い子供達もいるだろう。私は、その子らの良き先達として希望の灯をかかげるために、作家の道を歩みたい

壮厳な教会の中で、神に祈る私は、この願いが達せられるものならば、たとえ我が命、三十で果てようとも、本当に悔いはないと、真剣に思っているのである。

やっと、ここまでたどりつけた私、この私にとって、十年間の歩みは、本当に長く苦しいものであった。だが、今の私を作りあげたのは、私自身の努力よりも、むしろ、大手前高校の中で得た数少ない友の暖かい声援だつたと思う。

去つていつた友もいた。だが、私の肩をたたいて、「がんばれよ」と励ましてくれた友もいた。「大学にはいつたら何かおごつた

るからよ！」と喜ばせてくれる友もいた。そして、電話の中で、私の心を察して、芝居してくれた思いやりのある友もいた。

私は、そんな友に、何もしてあげることにはできなかった。しかし、卒業にあつて、友への伝言として、次の詩を贈りたい。

北風の中に枯葉は舞うよ

カサコソと何時も私の心の中に

哀しげに何かを語り 何かを悼む

黄色の病葉よ

幼い頃より 私の顔に 私の心に

かぶり続けたピエロのマスク

私にはもういらぬ

十七才の魂の苦悩を刻みつけたこのマスク

今、厳肅な気持ちで

枯葉とともに焼き捨てよう

私は

寒風の中の厳しさと孤独を愛す

友情に誓つて 新生に挑む

友よ！！

心美しく 強く 生きよう

追伸

カットを依頼した私の親友は、徹夜で考えてくれたそうだが、提出日の朝、彼女の満足とするものができなかった、という電話があつた。だが、私は、この無描のカットの中に、彼女の深い友情を感じる。ありがとう。

# 先生紹介

## 多賀谷先生



次の文を読んでいただければ数字の多賀谷先生を、お分かりいただけると思います。

をかし、男ありけり。その男身を要あるものに思ひなして「天高にはあらず、大手前に教えるべき」とて行きけり。もとよりつれとする人、

妻と子二、三人してなり。

あるとき、教室に立寄りければ、其教室に宿題忘るる者いと多くありけり。それを見て、「そこに立て」という五文字を上にする。順列を求む」と云ひければ、皆ん惑ひて乾飯の上に涙落としてほとびにけり。行き行きて二学期に至りぬ。放課後も授業の残りありて、もの心細く、すずろなるめを見ることと思ふにアチーづ会ひたり。限りもなく恐ろしきが米にかなとわびあへるに、「はやく解け日も穿れぬ。」と言ふに、吉かむとするに、皆人わびしくて、教室に思ふ人なきにしもあらず。さるかりしも、白衣の足と体と太き、人の二倍なる大ききなる、教室に遊びて生徒を食ふ。一、二年には

多賀谷先生 平瀬先生 岸田先生  
松田先生 小松先生 中村先生

見えぬ人なれば見知らず。三年に問ひければ、「これなむ、多賀谷氏」と言ふを聞きて、  
名にしおはばいざこと問はむ多賀谷氏が思ふ点はありやなしゃとよめりければ教室こそりて泣きにけり。

多賀谷先生は「習うより慣れる」と数学の問題を教多く教えられる反面、公式、理論の徹底と計算の完全に重点を置かれ、私は先生に教習を教えていただけほんとうによかつたと思つています。と、スプリングには書いておこう。

## 平瀬先生

ミュンヘンオリンピックで日の丸を掲げたあの田口信教氏に似た容現をもたれ、なかなかのスタイリストといえは、我らが平瀬卓男氏である。その笑顔は平瀬スマイルとして名高い。一九七二年九月より、数学の講師として、本校に勤められたが、本年度より教諭となられた。

先生は授業に非常に熱心であり、常に新語を用い、黒板を縦横無尽に使われ、生徒の理解力を高めようと努力されている。字は大きい。後ろからもよく見える。しかし、「絵」はあまりお得意ではないうらだ。文節ごとに「ネ」をつけられる癖があり、一分間に十三



回の記録がある。

218が文化祭で上映した例の「孫悟空」に特別出演され、大囃采を博された。修学旅行の宿で、「もちつき行事」が催された時、先生のステージへの登場を求める大シユプレヒコールが九州の空にこだまし、先生もそれにこたえられた。

先生のご趣味は、サイクリングと将棋だそうだ。音楽にも興味を持っておられる。修学旅行の帰りの夜行では、淡々と「北帰行」を歌われ、大好評を博された。そのうえ、文学にも造詣が深いのである。初期の野坂昭如や、ソルジェニーツィンがお気に入りである。尚、先生のお誕生日は、一月八日である。

### 岸田先生



岸田尚子さん。先生といふより、近所のおばちゃん（おねえちゃん？）という感じ。何でも気軽に話しかけられるし、非常に冗談がきついです。（このせいで筆者など何度泣かされたことか）年令30才前半。よき教師であり主婦でありまた、一児の母でもいらつしやる。

先生の授業は非常に理解しやすいんです。（先生と生徒のレベルが近いから？）そして先生は、生徒と共に楽しみながらやってくれるんです。（本人は真剣であると言っておられるが……）筆者は英作文法を教えてもらっているんですが、先生はできるだけ生徒の英作文の原形をよどめて訂正されろりて、そのために涙ぐましい努力を払われるのです。その熱心さのせいか、しばしば教壇から足を踏みはずされたり、高い位置に板書するためにジャンプされたり、いすの上で立たれたりするので。（これは男子生徒に悪い刺激を与える。）授業中まらかわれたり、テストの時スベルを適当にごちかして書くと、マルをくださるところからも、先生の間くささがうかがわれるでしょう。

いろんなことを書いたけど、岸田サンはとて面白い先生なんです。若くって、かわいくって、センスがよくって、（ホメス手ノ）背の低いのが玉にキズだけども、先生の顔を見たらほほえみかけてみてください。きつと（シワをかくすために？）顔をクシヤクシヤにし、かわいい笑顔で応えてくださるでしょう。

### 松田先生

松田先生は校内一のジエントルマンであるといつても師の場合、決して誇張ではございません。服装はパリッとしていて、いかなる場合にもほとんど態度をおくずしになられません。寛大な心の持主として、本気で腹をちたてになられたことは、なかつたように思います。掃除をさぼった時にも、遅刻をした時にも、お怒りにならず



また、トラの巻を机上に発見された時にも、これより辞書の方が実  
力がつくと冷静におたしなめになられただけなのです。生徒を信頼  
しておられるのです。(それとも見捨てられとるか)こんなことも  
ありました。リーダーの授業をやっているうちに疑問点が出て来た  
時、師は一番前の席で大胆にもトラを出している者から、それを  
取り上げになって曰く、「是れにはどう書いてありますか? んーん  
ナルホド」と。一度に断定しないで幅広くいろいろを書籍をご参考  
になさるのです。又、師は語イの量が極めて豊富でいらつしやり、  
新しい単語が出て来た時には、その反対、同意、同語源の話をくわ  
しく示され、ついでに私共はフランス語まで教授していただけるの  
です。このように、学校で優しい師は、その御家庭でもそうでいら  
つしやるらしく、終業のベルと共に教員室を去られ、京阪区間急行  
(師宅は大和田)に飛びのられるのです。

### 小松先生

壇輪に似た顔の持ち主、宇宙人を形取ったものではないかと言わ  
れる、あれである。勿論、日本史の先生。彼ゆえに涙する生徒は後  
を立たないのだが、この理由も又、ユニークだ。

授業中は、ほほ、ひっきりなしに何事か話しておられる。そして  
無礼にも眠る人、内職する人をにらみつつ、舞台を教壇より机と机  
の谷間に移されるのである。そして突然講義が途絶え、無気味なる  
「小松の微笑」が彼の口元に浮かぶや否や、「ハイ/君、言つてごら  
ん」という事になる。勿論そう言う前にちゃんと質問しておられる  
のだが、講義の際の口調と、質問の際のそれとの間に、何の変化も  
ないため、「君/」と呼ばれてうるたえる人も多い。加えて言うな  
れば、鼻濁音を使われるため、講義を全く聞きとれない人もいるは  
ずだ。(何故、音楽部や放送部から推されないのであるか?) もう  
一つ加えて、ごく気まぐれに(?) 早口で何事かのたまりのたまり  
こうなると、生徒にとつても死活問題になつてくるのであるが尚、  
恨まれることがないのは、彼の人徳からであろうか? 授業の運び方  
にも、「恐怖政治」という人は居ない。これも…?

古い人間だと、思われようと、教室を退出する際には必ず、教室  
へ向つてお辞儀をなさる御仁。

雑学の好きなオジサマで、雑談も好き。山岳部の顧問をしてられ  
たためすごい特徴のある歩き方。品質保証します。(奥様へ)

### 中村先生

中村先生の横顔を少し紹介させていただきますと、昭和20年11月18  
日生れの弱冠28才、本校から国立京都大学で進まれ、八尾高校から  
今年、転任してこられた、我らが良き?先輩であります。一見ボケ  
とした顔つきからはとても「数学の教師」という印象はないのです。

聞くところによりますと本校女生徒の中にも一時期ではあれ、淡い恋心を覚えたものも少なくはないとか、とにかく人気のある先生です。(いつわりのない事で、ゴマスリではないのです)

先生の趣味は、といいますと音楽をまどろみながら聞くことと、歩くことだそうて、自己紹介された時に我耳をうたがいたくなるほどでした。何でも、学生時代にはしばしば京都から自宅のある大阪まで歩いて帰られたという事で、時速6Kmは楽だということでした。秋期校外教授ではその脚を存分に発揮され生徒のナッブサックを頑張つて運ばれてました。(何とジャンケンの弱いこと)

さて、その授業はと言いますと形容のしかたがないほどすばらしく、教字を得意としない私でもよくわかり?ただ難をあげるとすれば終了のチャイムが鳴つた後が早口になることのみで、めつたに延長はされませんし、時間におくられて来られることもなくいつもニコニコして入つて来られ、不思議な顔で出て行かれます。(まあ、一度、興味のある人は見に来て下さい、歓迎します。)

なお、先年までいらつしやつた中村先生(英語)をガンサンとよんでいたので対して、この中村良一先生は「リョウサン」と、職員室でよばれていられます。

## スプリング編集後記

江田 竜 咲

スプリングの編集作業(新聞やコピトでも同じだが)人数が何人いてもはかどらず、やはり実働するのは、二、三人ずつだった。その二、三人ずつも何回転かして、このスプリングは完成した。しかし、40ページのこの小冊には、随分、時間と労力を費した。

復古調をめざし、電の低下を質の向上で補うと少々改革を志したがあまりたいしたことはできなかった。だがこの14号の完成だけで、我々自治会、文化部の生命の強さをはかることができる。

### 文化部編集委員

藤本泰子 阿部誠司 根津芳信 岩井由利 中島恵子 黄日登美

久保優子 須川隆夫 仲野徹 江田龍咲

### 編集部協力

牟田口雅章 市村圭子 池田千鶴子 上原裕美 横井晶子

須佐美隆史 浦井二郎 高瀬順子 柴十糸子 阿南真理

谷口如正 尾山一義 川畑茂 樋上哲哉 木内一喜 坂本正子

山角泰清 東野正 上田佳子 巽雄三 上坂洋文 江田憲治

## スプリング 第十四号

昭和四十九年一月二十五日 印刷  
昭和四十九年二月一日 発行

非 売 品

編集者代表 江田龍咲・仲野徹

発行者 大手前高校自治会文化部

発行責任者 文化部顧問 桑原啓

印刷所 ナニワタイラ有限会社

大阪府立大手前高校自治会

大阪市東区大手前二丁目二

発行所